単元を構成する力を付け、授業力を高める

授業研究ハンドブック

山形県教育センター

は　じ　め　に

本県では、「知徳体が調和し、＜いのち＞輝く人間の育成」を目標として、第５次山形県教育振興計画に基づく取組みを進めており、前半の５年を終えようとしています。今後は、学校・家庭・地域の教育活動において一層、コミュニケーションを核として、心が通い合う教育を実践していくこととしております。

国や地域の将来を担う、あらゆる意味において質の高い、心豊かな人間を育むことは教育の不易の営みであり、そのために学校教育においては、「実践的指導力」を身に付けた教員の存在が不可欠です。そうしたことから、教職員間の連携の強化と連帯感・同僚性の醸成、授業を中心にすえた実践研究の充実など、ＯＪＴ・校内研修の取組みが着目され、学校課題に即した実践が各校おいて展開されています。

当教育センターでは、全国教育研究所連盟第１９期共同研究（平成１９～２１年度）の研究主題「実践的な指導力の向上を図る、これからの教員研修の在り方」へのアプローチとして、提案性を指向した「単元を構成する力を付け、授業力を高める授業研究の在り方」を研究してまいりました。協力校による検証結果を踏まえて、ここにまとめました「授業研究ハンドブック」は、３年間の研究成果であります。と同時に、授業づくりを核とした校内研修の日常化についての具体の提案でもあります。

この「授業研究ハンドブック」は、児童生徒のより確かな学びと学力を保障するための授業づくりはどうあるべきかという定点を見つめ、＜校内＞の視座を最大とり入れて編集しました。児童生徒の育ちに結果する、教員の授業力の向上、毎日の授業の目的的な組立てのための一助となることを願っております。

平成２２年３月

山形県教育センター
所長　　柳　谷　　豊　彦

単元を構成する力を付け、

ワークショップの手法で校内研究のテーマについて話し合い、全職員での共通理解を図ります。
（山形市立高楯中学校）

教科は異なっても授業の基本は同じ。各教科等に共通する学習指導上のテーマを一緒に検討します。
（天童市立第二中学校）

P（計画）
事前の

児童が予想外の反応をした場合も、単元計画をもとに臨機応変に対応しています。
（寒河江市立醍醐小学校）

D（実施）
授業実践の工夫

事前研究で授業者と参観者の間で課題を共有しているので、視点を明確にして参観することができます。
（天童市立長岡小学校）

C（評価）
事後研

授業力を高める！

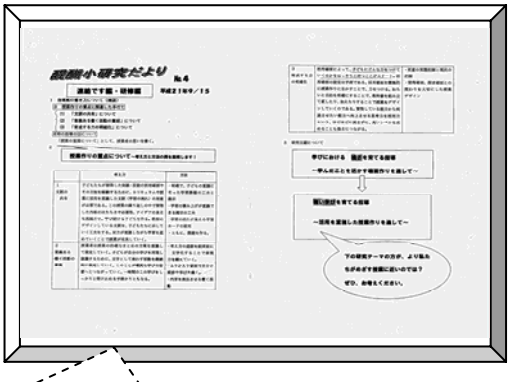
今、単元を構成することを大切にして、そこからPDCAサイクルをより充実させようとする取組が始まっています！

授業づくり

国語科学習指導要領改訂のポイントについての研修会を行い、それを受けて事前研究を実施しています。
（東根市立小田島小学校）

A(改善)

次に向けた改善



事後研究会で話し合われた内容をまとめ、次の実践につながるよう、研究主任が通信を出しています。
（寒河江市立醍醐小学校）

究会の工夫

ワークショップの手法を取り入れ、教科の壁を越えて、事後研究会を実施しています。
（東根市立神町中学校）

ハンドブックで用いている『用語』について

このハンドブックで用いている用語について、以下のように規定します。

【単元】

例えば、道徳では単元と呼ばずに「題材」と表現し、社会科では「大単元、中単元、小単元…」といった区分も見られます。一般的には、「学習指導のために、一定の目標や主題を中心として組織された教材や経験の単位」(『新版 学校教育辞典』教育出版 2003　p.503)とされており、ここではこれを単元の定義とします。

【単元を構成する】

単元の目標や主題に沿って、教材、児童生徒の実態、指導者の意図、評価…などを関連付けて指導計画として組み立てることを指します。

単元を構成する場面としては、大きく次の２点があります。

① 単元の指導に入る前に、単元の指導計画（以下「単元計画」と表記する)」として作成すること

② 単元の指導の中で、指導を通して見えてきた児童生徒の実態や更なる指導のアイディアなどを生かし、単元計画を工夫改善していくこと

ここでは、①と②の両者を含めて「単元を構成する」こととしてとらえています。

【授業力】

「教師は授業で勝負する」と言われるように、教師には、授業を構想し、授業を設計し、実践し、実践を評価し、改善を加えながら更に次の授業づくりに立ち向かっていく確かな指導力が求められます。ここでは、この一連の指導力を、授業力としてとらえています。

授業力は、ＰＤＣＡサイクルの中で「授業構成力」（Ｐ)、「授業実践力」（Ｄ)、「授業分析力」（Ｃ)、「授業改善力」（Ａ）ととらえることもできます。

【授業研究】

指導案を作成し、授業を参観し合い、事後に研究会を開催する一連の取組を「授業研究（会)」と呼ぶことがあります。しかし、各学校では、年に何回か開催される授業研究（会）だけではなく、日々の授業そのものを研究の対象としていることが少なくありません。

このハンドブックは、単元を構成する力を付け、授業力を高めていく上で重要と考える単元全体のＰＤＣＡサイクルに注目し、提案の対象としています。

そこで、ここでは、授業研究（会）だけでなく、授業づくりにかかかわる日々の研究全体を「授業研究」としてとらえていきます。

１　今なぜ、単元を構成する力の向上が必要なのか

授業改善を進めるためには、Ｐ（計画）、Ｄ（実施）、Ｃ（評価）、Ａ（改善）のそれぞれの工夫改善を図るとともに、このサイクルをスパイラルに機能させていくことが大切です。

中でも、Ｐ（計画）の段階で「単元を構成する力」を向上させることは、サイクル全体にとって、またそのスパイラルな機能にとって、とても重要な意味をもちます。なぜなら、日々の授業は、最初に作成された単元計画に基づいて、また授業実践を通して工夫改善され続ける単元計画に基づいて行われているからです。

もちろん、各学校ではこの点を踏まえた取組がなされていることでしょう。しかし、「実践された授業をどう分析するかの前に、もっと“授業をどうつくるか”が吟味されなければ、事後の検討も意味をなさない」「新しい教育課程に対応した単元をどうつくったらよいか悩んでいる」といった声が聞こえているのも事実です。

このような状況を改善するためには、ＰＤＣＡサイクルの最初のＰ（計画）の段階で「単元を構成する力」を向上させることが必要です。

２　『授業研究ハンドブック』を作成する意図

しかし、分かってはいても何をどう改善すればよいのか…という悩みも聞こえています。そこで、山形県教育センターでは、単元を構成する力を付けることで授業力を高める授業研究がより一層推進されるよう、参考となる資料として『授業研究ハンドブック』を作成しました。

３　『授業研究ハンドブック』の基本的な考え方

（１）　単元を構成する力を付けることで、授業力を高める授業研究の在り方を追究していくために参考となるハンドブックとします。

（２）　山形県内の学校の実践なども取り入れながら、参考となる考え方や資料、実践事例などを具体的に提供します。

４　『授業研究ハンドブック』に期待できること

（１）　「単元を構成する力」を向上させる授業研究が推進されることで、単元全体を通して児童生徒をはぐくむ授業力が高まる。

（２）　授業研究を推進する上での課題、実践の中で新たに生じた疑問、今ほしい情報などがハンドブックを通して得られることにより、授業研究のより一層の推進が図られる。

（３）　本ハンドブックを山形県教育センターにおける講座などで活用しながら、本県の授業研究の一層の充実を図っていくことができる。

≪目次≫

～単元を構成する力を付け、授業力を高めるために～

Ｐｌａｎ（計画）

※Ｐ１は、Plan１のことです。

こんな内容を！：【単元構成の基本】

Ｐ１：授業づくりの中で「Plan（計画）」の充実を図りたいのですが、どうすればよいでしょうか？

《指導内容の確認》

Ｐ２：指導内容の確認とは、教科書から確かめるだけではいけないのでしょうか？

《児童生徒の実態把握》

Ｐ３：児童生徒の実態把握を適切に行うには、どうしたらよいでしょうか？

《学習指導要領の活用と単元の構成》

Ｐ４：学習指導要領解説を分析する際のポイントは何ですか？

Ｐ５：単元計画は、教科書の計画どおりでよいのでしょうか？

Ｐ６：単元目標・教材観・児童生徒観・指導観を作成する際のポイントは何でしょうか？

Ｐ７：単元計画の中に評価計画をどのように位置付けていけばよいのでしょうか？

Ｐ８：どのような点に気を付けて単元計画を作成すればよいのでしょうか？

《本時計画の作成》

Ｐ９：本時の計画は、どのように作成すればよいのでしょうか？

《学習指導案の完成》

Ｐ10：他の教員が作成した学習指導案について共通理解を図る際のポイントは何でしょうか？

こんな方法で！：【単元構成の手法】

Ｐ11：事前研究を重視し過ぎると、授業者の持ち味が失われませんか？

Ｐ12：事前研究でもワークショップ型の話し合いをしたいのですが、何かよい方法はありますか？

Ｐ13：事前研究が、授業者任せにならない何かよい方法はありませんか？

Ｐ14：授業研究会で、本時は単元計画のどの時間を行えばよいでしょうか？

Ｐ15：「模擬授業」を行うことで、どのような効果が期待できますか？

Ｐ16：限られた時間の中で、より有効に機能する授業研究会にするにはどうすればよいでしょうか？

Ｄｏ（実施）

※Ｄ１は、Do１のことです。

Ｄ１：発問や指示など、どのようなことに気を付けて授業を進めればよいでしょうか？

Ｄ２：児童生徒が予想外の反応をした場合、どうすればよいでしょうか？

Ｄ３：児童生徒の記録を取る場合、どんなことに気を付ければよいでしょうか？

Ｄ４：より多くの人に授業を観ていただくには、どんな方法がありますか？

Ｄ５：他の教員の授業を参観する時、どんなことに気を付ければよいでしょうか？

Ｃｈｅｃｋ（評価）

※Ｃ１は、Check１のことです。

Ｃ１：事後研究会を深めるには、どのような工夫をすればよいでしょうか？

Ｃ２：事後研究会の時間が短い場合、どんなことに配慮すればよいでしょうか？

Ｃ３：事後研究会で教科の壁を越えるにはどうすればよいでしょうか？

Ｃ４：日々の授業の振り返りは、何をすればよいのでしょうか？

Ｃ５：日々の授業の振り返りを深めるには、どうすればよいでしょうか？

Ａｃｔｉｏｎ（改善）

※Ａ１は、Action１のことです。

Ａ１：単発になりがちな授業研究会を改善するにはどうすればよいでしょうか？

Ａ２：事後研究会の内容を、共通理解するにはどうすればよいでしょうか？

Ａ３：事後研究会の話し合いを、実践につなげるにはどうすればよいでしょうか？

Ａ４：次の単元計画を考える際は、どのようなところに気を付ければよいでしょうか？

Ａ５：次年度に活用できる「研究のまとめ」（研究紀要）にするためのポイントはあるでしょうか？

Plan1 （計画）こんな内容を！

Ｑ　授業づくりの中で「Plan（計画）」の充実を図りたいのですが、どうすればよいでしょうか？

Ａ　まず、学習指導要領を基に教師間の協同的な学びを通して、授業づくりの基本的なプロセスを確認します。

１　学習指導要領は最低基準

学習指導要領は最低基準です。私たちが、授業づくりを行う際、この最低基準が示されている学習指導要領を無視することは考えられません。まずは、児童生徒が身に付ける最低基準の力をおさえる必要があります。

２　単元構成力を高める授業づくりの基本的なプロセス

授業研究会で授業を公開しなければならない時はもちろんのこと、普段の授業づくりにおいても次のページに示す授業づくりの基本的なプロセスを確認する必要があります。どの教師も基本的なプロセスを念頭に置いて授業者が毎日の授業づくりを行っています。

３　協同的な授業づくり

毎日このプロセスに沿って丁寧に授業づくりを行うことは、現実的に難しいことです。しかし、授業研究会で授業を公開する場合などは、他の教師とチームをつくり協同的に授業づくりを行います。その際、ただ相談したり検討したりするだけでなく、ワークショップ型の話し合いなどを取り入れることで、より充実した授業づくり（事前研究）を行うことができます。

４　普段の授業づくりでも実践

次のページの「単元構成力を高める授業づくりプラン」は、授業研究会の時だけ行うものではありません。日々の授業づくりこそが、授業研究であるという視点が大切です。授業者は、授業づくりの基本的なプロセスを意識することはもちろんですが、自身の課題はどのプロセスにあり、どう授業改善を行えばよいかを考えながら、日々の実践を行うことが大切です。

単元構成力を高める授業づくりプラン

学習指導要領のポイント

総則にある教育課程実施上の配慮事項を授業づくりに生かす。

1　思考力・判断力・表現力の育成
2　言語環境の整備
3　言語活動の充実

1　体験的・問題解決的な学習の促進
2　自主的、自発的な学習の促進
3　見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動の重視

1　指導方法や指導体制の工夫改善など個に応じた指導の充実
2　障がいのある児童生徒の指導を充実
3　情報教育の充実
4　学校図書館の効果的な活用

授業づくりの基本的なプロセス

1　扱う単元（題材）の目標設定
本単元で指導すべき目標を各学校の年間指導計画で確認する。

2 指導内容の確認
教材（題材）・資料、学習課題を確認する。
☞Ｐ２へ

3 児童生徒の実態把握
前単元などの指導から分析する。
☞Ｐ３へ

4　学習指導要領解説の活用
Ｇ・Ｐ・Ｓ・ＴＴの視点で確認する。
☞Ｐ４へ

5　単元の構成（単元目標・指導観などの決定）
単元の大まかな流れとともに、単元目標、単元について（教材観・児童生徒観・指導観）を決める。
☞Ｐ５へ・Ｐ６へ

6　観点別の目標設定と評価計画の作成
具体的な行動目標とし重点目標などを決める。
☞Ｐ７へ

7　より詳しい単元計画の作成
各時間の目標を絞り込みながら、学習課題との整合性、評価規準と方法、支援計画を考える。
☞Ｐ８へ

8　本時計画の作成
本時の目標、学習課題、評価などを吟味する。
☞Ｐ９へ

9　学習指導案の完成
指導案についての点検を行ったり共通理解を図ったりする。
☞Ｐ10へ

10　Ｄｏ（実施）へ

教師の協同的な学び

事前研究会重視☞Ｐ11へ

【ワークショップ①】
教科書と学習指導要領解説を比較
☞Ｐ12へ

【持ち寄り単元構想案】
複数の単元計画を比較
☞Ｐ13へ

【ワークショップ②～⑦】
○教科書と学習指導要領解説を使っての単元構想案づくり
○総合的な学習の時間の単元構想案づくり
○過去の指導案を基に単元構想案づくり
○異教科の教師間で単元構想案づくり
○日常的に行える指導の重点を明確にした単元構想案づくり
○他校の教科担任と協力して単元構想案づくり
○～の得意な教師を生かした単元構想案づくり
☞Ｐ12へ

【単元の核となる時間】
本時は指導のやりにくい場面を公開
☞Ｐ14へ

【模擬授業】
授業者の視点を共有
☞Ｐ15へ

Plan2（計画）こんな内容を！

Q　指導内容の確認とは、教科書から確かめるだけではいけないのでしょうか？

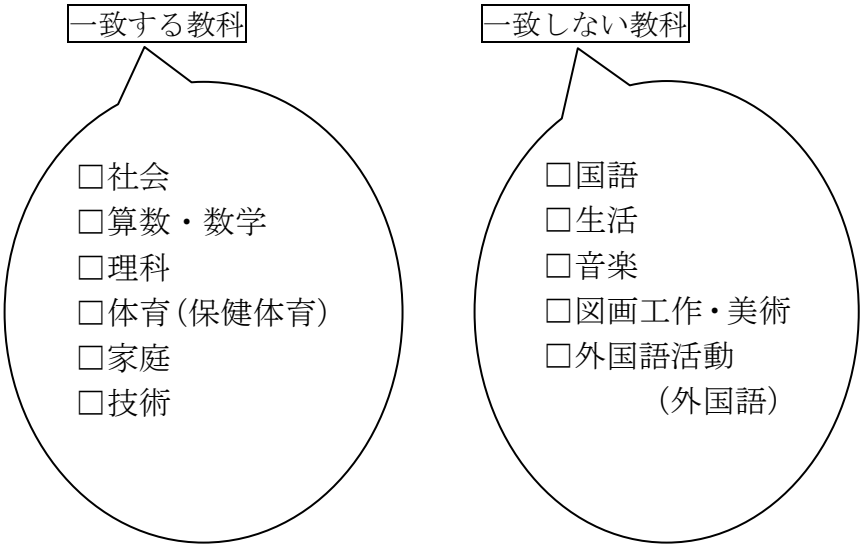
A　不十分です。学習指導要領（各教科等の解説）を分析し、「指導内容」を適切にもつようにします。

1　各教科等の解説から指導内容（指導事項）の確認

これから扱う単元が、どの（指導）内容に当てはまるのかを、各教科等の学習指導要領解説で確かめ、指導事項を決定します。その際、次のことに留意しましょう。

2　各教科等の特徴をとらえること

学習指導要領解説の内容と教科書の単元名が一致する（単元名を読めば学習指導要領解説の内容がイメージできる）場合と、学習指導要領解説の内容と教科書の単元名が一致しない（単元名を読んでも学習指導要領解説の内容がイメージできない）場合があります。



※道徳、総合的な学習の時間、特別活動は除く。

3　「活動あって学びなし」にならないための確認

一致する教科は、比較的何を指導していけばよいかが、教科書を見ただけでイメージがもてます。ただ、どう指導していけばよいのかについては、十分な分析が必要です。一方、一致しない教科は、教科書を見ただけでは、ここでどんな力を身に付けていくかがはっきりと分かりません。教科書をそのまま教えることになってしまいます。身に付けるべき力が曖昧になってしまったり、「活動あって学びなし」に陥ってしまったりする危険性があります。

そこで、両者ともに、学習指導要領解説を分析し指導内容を明確にもつことが重要です。

一致する場合の例

1　中学校理科２分野の場合

○　教科書の単元名「動物たちの世界」

第１章　生命を維持するしくみ

⋮　　（学校図書）

○　学習指導要領解説の内容

第２分野　２内容　（３）動物の生活と生物の変遷

イ　動物の体のつくりと働き

（ア）　生命を維持する働き

消化や呼吸、血液の循環についての観察、実験を行い、動物の体が…

（イ）　…

一致しない場合の例

1　小学校国語４年生の場合

○　教科書の単元名「心の通い合いを読もう」**ごんぎつね**　（教育出版）

○　学習指導要領解説の内容

第３学年及び第４学年「C読むこと」

（2）　内容

①　指導事項

（1）　読むことの能力を育てるため、次の事項について指導する。

ア　内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。

イ　目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。

ウ　場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。

⋮

②　言語活動例

（2）　（1）に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア　物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。

イ　記録や報告の文章、図鑑や辞典などを読んで利用すること。

ウ　記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合うこと。

⋮

「ごんぎつね」を教えるのではありません。「ごんぎつね」を通して、どの**指導事項**を取り上げるのかを考え、それにあてはまる**言語活動**を決定していきます。

2　中学校音楽１年生の場合

○　教科書の単元名「**音楽のしくみ**」**夢の翼**　（教育出版）

○　学習指導要領解説の内容

A　表現

（1）　歌唱の活動を通して、次の事項を指導する。

ア　歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと。

イ　曲種に応じた発声により、言葉の特性を生かして歌うこと。

ウ　声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。

音楽の場合は、単元名や題材名からだけでは、どのような力を児童生徒に付けるかが明確でないので、指導事項をきちんとおさえる必要があります。

Plan3（計画）こんな内容を！

Q　児童生徒の実態把握を適切に行うには、どうしたらよいでしょうか？

A　これまで（Before）の児童生徒の学習状況をとらえ、その状況に到っている原因を明らかにした上で、指導の改善（After）を考えます。

1　クラスの実態、児童生徒一人一人の実態把握

授業づくりにおいて、児童生徒の実態を把握することが大切であることは、どの教師も理解していることです。新しい単元に入る前に、そのクラスの全体的な実態、そして児童生徒一人一人の実態を把握し単元計画を立てます。無計画のまま指導を始めたり、場当たり的に指導をしたりすることのないようにします。

2　客観的な把握

児童生徒の何をどう把握すればよいのかについては、それぞれの教師任せになり曖昧な点が多いのが現状です。ややもすると、児童生徒の情緒的な側面（例えば「おとなしく、自分から積極的に発言することは少ない」など）からの把握に終始してしまい、教科等の特性を踏まえた上での客観的な把握が十分でないケースがあります。

3　児童生徒の実態把握のプロセス

そこで、次のようなプロセスで児童生徒の実態を把握してみましょう。

1　前単元での児童生徒の指導事項（内容）に関する学習到達状況を把握するとともに、どのような指導を行ってきたかを振り返る。また、必要に応じて診断的評価を行い、児童生徒のスタートラインを確かめる。
2　学習到達状況の到達率が低い指導事項（内容）を明らかにする。
3　到達率が低い状況にある原因を追究する。
4　児童生徒の現状を打破するために、本単元で、どのような学習活動でどう指導していくかを考える。

4　前単元での児童生徒の学習状況の把握

特に、前単元で児童生徒がどのような実態であったかについては、授業中あるいは単元終了後に次のような手段を用いて見取り、実態を把握していきます。そのためにも、授業記録簿や週案簿などに、児童生徒の様子を記録しておくことが有効です。短時間で全員を記録するのは難しいので、気になる児童生徒あるいは、見取る児童生徒を数人決めて把握していく方が現実的です。

見取る手段は、次のようなものがあります。
- □　授業中の目に付いた行動や発言から
- □　発言やつぶやきの内容から
- □　学習シートやノートの記述内容から
- □　テストの結果から
- □　家庭学習の習慣やその内容から
- □　自習時間の態度や学習成果から
- □　児童生徒との面接から
- □　担任以外の教師の情報から　など

「校内授業研究の進め方ガイドブック」岩手県立総合教育センター
－平成 19 年度版－　p.２１　より

【例】小学校国語第３学年及び第４学年「Ｃ読むこと」
－詳細な読み取りに偏った学習－

１　前単元で、児童生徒の指導事項（内容）に関する学習到達状況を把握するとともに、どのような指導を行ってきたかを振り返る。

・前単元での指導事項（解説より）

オ　文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。
カ　目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。

・期待する児童の姿

友だち同士で面白かった本の紹介をし合ったり、同じ題材の本を交換して読んだりするなど、読書への関心を高め、学級の児童の読書生活を豊かにしていきたい。

・前単元での授業の実際《Ｂｅｆｏｒｅ》

１　指導の実際（指導時間１０時間扱い）
（１）教材文Ａを意味段落に分けて段落ごとに読み進めていった。（６時間）
（２）教材文Ａの作者の同じ作品を数冊準備し、その中から好きな作品を選んでブックトークを行った。（４時間）

２　児童の様子
（１）教材文Ａの読み取りに６時間を費やしたが、時間が経つにつれて児童の興味・関心が薄れていった。
（２）ブックトークは楽しく取り組むことができたが、途中で時間がなくなってしまい、中途半端で単元を終えることになってしまった。

２　学習到達状況の到達率が低い指導事項（内容）を明らかにする。

ブックトークは楽しく行っていたが、指導時数が足りなくなってしまい、読書への関心を高め、読書生活を豊かにするまでは到らなかった。

３　到達率が低い原因を追究する。その際、次の視点から考える。

《視点》
（１）教師側の課題はありませんか？
（２）児童生徒側の課題はありませんか？
（３）教材・教具などの学習環境の課題はありませんか？

児童生徒の実態については、抽象的な表現を避け、具体的な表現で説明します。具体的とは、①客観的なデータを示す　②単元に直接関係のない内容は記さない　③教師の指導はどうであったかしっかり考えるなどです。

（１）教師側の課題

○　教材文Ａについて心情読解中心の詳細な読み取り指導になり時間がかかりすぎた。
・読み取りの指導法の改善

（２）児童生徒側の課題

○　実生活に生きてはたらく読みの技能が身に付いていない。
・日常生活における読み方の指導法の改善

（３）教材・教具などの学習環境の課題

○　教材文Ａの作者の著書が図書室に少ない。
・図書室における読書環境の整備

・指導の改善点《Ａｆｔｅｒ》

４　現状を打破するために、本単元ではどのような学習活動でどう指導していくかを考える。

○　教材文を意味段落に分けて初めから詳細に読み取っていくことはしない。
○　教材文の作者の著書を複数冊準備し、教材文と並行読書を行い、多読の技能を身に付けられるようにする。
○　学校の図書室にない本については、近隣の図書館などを積極的に活用していく。

Plan4（計画）こんな内容を！

Ｑ　学習指導要領解説を分析する際のポイントは何ですか？

Ａ　「Ｇ・Ｐ・Ｓ・ＴＴ」を確認します。
○「Ｇ」とは、Grade（指導事項における学年の系統性）です。
○「Ｐ」とは、Process（単元計画における学習の過程）です。
○「Ｓ」とは、Style（具体的な学習方法・学習活動）です。
○「ＴＴ」とは、Technical Term（授業づくりのキーワードとなる用語）です。

１　各教科等の解説を読む際のポイント

学習指導要領解説を読むことの重要性は、改めて言うまでもありません。解説に書かれていることを初めから丁寧に読み進めることが理想ですが、ここでは、読む（理解する）ポイントを明確にし、それをどのように指導案や授業づくりに生かしていけばよいのかを明らかにしていきます。

２　基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得

読むポイントになるのは、Ｇ・Ｐ・Ｓ・ＴＴです。なぜ、Ｇ・Ｐ・Ｓ・ＴＴに着目するかというと、次の３点の理由からです。

１　児童生徒が、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得するためには、「Ｇ」をとらえることが必要です。

３　学習の進め方

２　児童生徒が主体的に学習に取り組み、学習習慣を確立するには、学習の進め方を知る必要があります。その際、学習において「Ｐ」を考えることが大切です。

４　思考力・判断力・表現力などを身に付けるための、日常生活との関連付け

３　児童生徒が、これまで身に付けた知識や技能を活用して、主体的に思考力・判断力・表現力などを身に付けていくためには、日常生活との関連から課題を設定したり、学習したことが日常生活で生かされたりすることが重要になります。そのためには、「Ｓ」を明確にしていくことが必要です。

また、上記の３点を実行するには、学習指導要領解説の用語を正確に理解し、具体的なイメージを持てるようにすることです。

参考例

Grade（学年の系統性）について

【例】領解説小学校理科第４学年
（4）月と星
次のような記載があります！
「本内容は、第３学年「Ｂ太陽と地面の様子」の学習を踏まえて、「地球」についての基本的な見方や概念を柱とした内容のうちの「地球の周辺」にかかわるものであり、第６学年「Ｂ（5）月と太陽」の学習につながるものである。」

指導案にこう生かす

○　教材観…今回扱う単元との内容的な共通点と相違点を明確にします。特に、相違点については、内容的にどう変わっているのかについて確認し、実際の指導に生かしていくようにします。
○　児童・生徒観…過去の指導の実際を振り返り、その時の子どもたちの理解度や習熟度等を把握します。さらに、現在の子どもの実態もとらえ、実際の指導をどう改善していくかを考えます。

Process（学習の過程）について

【例】解説小学校国語
第１学年及び第２学年「Ｂ書くこと」…指導事項の配列＝学習のプロセスになっている例
（2）内容①指導事項に、次のような記載があります！
「（1）書くことの能力を育てるために、次の事項について指導する。ア　経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。イ　自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。ウ　語と語や…（以下略）」

指導案にこう生かす

○　単元計画…単元計画を考える際に、学習過程（どういう順序で子どもに指導事項を学習させるか）を明確にすることは、自ら学び、課題を解決していく能力の育成という視点からも、とても大切です。指導事項として教師がその過程を理解するだけでなく、子ども自身も学習計画を立て、見通しを持って学習を進められるようにします。

Style（具体的な学習方法）について

【例１】解説中学校国語第１学年「Ｂ書くこと」
②言語活動例に、次のような記載があります！
「（2）（1）に示す指導事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。ア　関心のある芸術的な作品などについて、鑑賞したことを文章に書くこと。イ　図表などを用いた説明や記録の文章を書くこと。ウ　行事等の案内や報告をする文章を書くこと。」
【例２】解説小学校算数第４学年〔Ｄ数量関係〕
次のような記載があります！
「〔算数的活動〕（1）オ　身の回りから、伴って変わる二つの数量を見付け、数量の関係を表やグラフを用いて表し、調べる活動」

指導案にこう生かす

○　指導観や単元計画…どのように指導を展開していくかを考える際には、具体的な学習活動を必ず明らかにしなければなりません。それは、子どもの思いや願いを実現するものであり、学習の効果を高めます。具体的な学習活動を通してどんな力（指導事項）を身に付けさせたいのかを明確にする必要があります。

Technical Term（キーワードとなる用語）について

【例】解説中学校社会「地理的分野」
「～とは」と用語を解説する記載があります！
「「世界的視野から日本と世界との交通・通信網の発達の様子や物流を理解させる」とは、～」
「～については」と用語を解説する記載があります！
「「律令国家の確立に至るまでの過程」については、～」

指導案にこう生かす

○　指導観や本時などの指導の実際・指導の留意事項…指導方法を考える際に、指導内容をより具体的にイメージしたり、より深く詳細に理解したりする必要があります。そうすることで、指導方法や指導を行う上での留意点などが明らかになってきます。偏った教材解釈や指導方法に陥ることがなくなります。

Plan5（計画）こんな内容を！

Ｑ　単元計画は、教科書の計画どおりでよいのでしょうか？

Ａ　教科書の計画が全ての児童生徒にあてはまるとは限りません。「指導内容」を適切に持つこと、「児童生徒」の実態を的確に把握することです。この両者を十分に吟味して、まずは大まかな単元計画を考えることが大切です。

１　大まかな単元の流れを構想

指導内容を確認し、児童生徒の実態も把握したとします。最後は、いよいよ単元の大まかな流れを構想していきます。考える際は、指導内容と児童生徒の実態をすり合わせていきます。次の視点で大まかな単元の流れを構想してみましょう。

２　構想を考える際のポイント

構想を考える際のポイントは次のとおりです。

1　単元のゴールを見据え、どのような児童生徒の姿を期待するかをイメージすること。
2　ゴールへ向かう学習展開において、児童生徒の意識や活動の向かう方向を的確に予測すること。
・　児童生徒の立場になって考える。
・　タイプの異なる児童生徒を想定し「この児童生徒であれば、この場面でこう考えるのではないか」などと、可能な限り具体に即して丁寧に予測する。
3　できれば複数の教師で予測を行うこと。
・　意見が異なった点については慎重に検討する。
4　前単元での指導の反省点を生かすこと。
5　再度、教材研究を行うこと。
・　できるだけ幅広く、拡散的に思考を巡らせる。

３　単元構想案を指導案に生かしていくこと

大まかな単元の構想案ができたら、案を基に指導案を作成します。その際、別の資料を作成するということではなく、構想案に記載された内容を生かすようにします。

このシートを作成することで、授業者自身の考えが整理されます。また、解説の指導事項と単元の目標をすり合わせることで、児童生徒に付ける力を的確に把握することができます。

単元（題材）名

教材名

解説に記載されている指導事項（内容）

※　Plan２や Plan４で行ってきた指導要領解説の指導事項と指導のポイントや留意事項等を記載。

すり合わせ

単元（題材）の目標

※　教科書から考えられる目標等と比較し検討する。

前単元（題材）での指導

※　Plan３で行った児童生徒の実態把握を通して、考えていく。

前単元での指導結果

（児童生徒の学習到達状況）

※　「教師の指導に課題がなかったか？」という視点を大切にする。

児童生徒の現状の原因

◇教師側の課題

◇児童生徒側の課題

◇教材・教具など学習環境の課題

※　児童生徒の課題を探すことよりも、教師の指導の在り方を反省してみる。

考えられる本単元での主な学習活動

導入

展開

まとめ

※　児童生徒一人一人の実態に基づいて指導を構想し、大まかな計画を立てる。

ここの分析が大切です！

特に、教師側の原因を的確に把握できるかどうかが鍵です。

Plan6 （計画）こんな内容を！

Ｑ　単元目標・教材観・児童生徒観・指導観を作成する際のポイントは何でしょうか？

Ａ　単元を通してどんな力が児童生徒に身に付くのかを常に考え、大まかな単元計画を具現化します。

１　単元目標の重点化

単元目標を作成する際は、学習指導要領に示された目標や内容を踏まえながら、学級の児童生徒の実態をとらえて具体的な学習活動をイメージすることが大切です。各教科等における観点別評価に基づき、この単元で児童生徒にどのような資質や能力を身に付けさせるのかを明示します。しかし、全ての観点を同じような力配分で指導するのでは、限られた時間内で最大の効果を生み出すことは難しいです。この単元では、どの観点を重点化して指導するのかを考え、指導に生かしていくことも大切です。

２　「教科書を指導する」のではなく「教科書で指導する」

教科によっては、題材観とも呼ばれますが、単元目標に示された児童生徒に付けたい資質や能力が自然に身に付くことはありません。そこで、児童生徒の実態に応じて、何を使って（基に）身に付けさせていくかを明らかにしていくのが教材観です。学習指導要領解説にある指導内容から教材を分析・解釈していきます。その際、教科書に記載されている教材が果たして目の前の児童生徒に適当なのかどうかを考える必要があります。いわゆる「教科書を指導するのではなく、教科書で指導する」という考え方です。

３　指導内容にかかわる児童生徒の実態

指導内容にかかわる児童生徒の実態について考えます（詳細は、Ｐ３でも述べましたので参照してください）。

上記の単元目標・教材観が、しっかりしていないと「本学級の児童は、明るく積極的で何でも興味を示します」や「本学級の児童は、積極的で自分の思いや考えをしっかり発言できます」というような、どの教科における指導なのかが分からない漠然とした内容になってしまいます。

４　指導観

上記の項目を踏まえ、この単元でどのように指導をしていくのがよいかを考えます。この際、単元の大まかな指導の流れをイメージせずに、指導方法や学習の形態などを考えると、場当たり的な学習活動になってしまいます。Plan５で示したように、単元構想の大まかな流れを考えながら指導観を吟味していく必要があります。

このポイントを記載できるかどうかが鍵です！

【単元目標】

主な記述内容	授業構想と学習指導案作成のポイント	参考資料など
・この単元を通して、児童生徒がどのような資質・能力・態度を身に付けるのかを記述 ・各教科等における観点別評価を記述	◎　前単元までの指導で身に付いていない児童生徒にとって必要な資質や能力などを単元目標として取り上げ重点化していますか。そして、学習指導要領の指導事項と一致していますか。 ◎　目標が複数学年にまたがっている教科については、前学年・次学年との系統性をきちんと図り、確認した上で、目標を設定していますか。	・学習指導要領解説 ・教科書 ・参考文献　など Plan4 の Grade との関連を図る。

【単元について】

（1）教材観

主な記述内容	授業構想と学習指導案作成のポイント	参考資料など
・単元目標について ・指導内容について ・教材分析、解釈について ・指導の系統性について　など	◎　単元で育てたい力が、次単元以降にどのように機能していくかを記述していますか。 ◎　単元で育てたい力が、各教科等の学習にどのように機能していくかを記述していますか。 ◎　単元で育てたい力が、学習時間以外の児童生徒の実生活にどのように機能していくかを記述していますか。	・学習指導要領解説 ・教科書 ・参考文献　など

（2）児童生徒観

主な記述内容	授業構想と学習指導案作成のポイント	参考資料など
・教科の学習全般の様子について ・指導内容にかかわる実態について（4観点から） ・学習方法や形態の経験について ・目指す児童生徒の姿　など	◎　本単元で付けたい力に応じて、これまでの同系統の学習指導における実態を記述していますか。 ◎　前単元までに身に付いた具体的な「育てたい力」を記述していますか。また、前単元まで身に付いていない、子どもにとって必要な「育てたい力」を記述していますか （身に付いていない内容は、単元目標で重点化を図る）。 ◎　児童生徒にとって未だ身に付いていない内容に関する教師自身の指導上の課題を記述していますか。	・観察 ・アンケート ・学力検査　など Plan4 の Grade との関連を図る。

（3）指導観

主な記述内容	授業構想と学習指導案作成のポイント	参考資料など
・指導過程と指導内容について ・指導上の工夫点（学習方法、学習形態、教材・教具、使用機器など）について　など	◎　児童生徒にとって、未だ身に付いていない内容に関する指導上の課題を解決するための指導の手立てを、箇条書きにしていますか。その際、「これまでの指導のどこをどう変えるのか」を明確にして記述していますか。 ◎　学習が児童生徒自身の課題となり、子どもが学習の主体となるために、どのような方法で指導するかが記述されていますか。	・学習指導要領解説 ・教科書 ・児童生徒の実態 ・参考文献　など Plan4 の process との関連を図る。

P 6

Plan7（計画）こんな内容を！

Q　単元計画の中に評価計画をどのように位置付けていけばよいのでしょうか？

A　いわゆる観点別の評価項目の特徴を理解し、どの時間でどの観点を重点的に評価するかを決定します。

1　４観点の単元目標の具現化

目標に準拠した評価への転換により指導要録の観点別評価に基づく評価規準づくりが一般的に行われています。学習指導案の単元目標には、いわゆる４観点が盛り込まれ、それらを達成するための授業づくりが行われています。どのように評価を行うかについては、教師によってばらつきがあってはなりません。

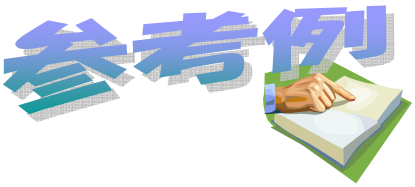
2　多面的に様々な方法で評価

４観点それぞれの項目について、具体的な評価方法の例を示します。

●「関心・意欲・態度」
・発言等の有無や回数、宿題等の提出状況といった一面的で表面的な評価だけでなく、様々な評価方法を組み合わせていく。
・教師が児童生徒の学習の様子を記録したものを集約していく等ポートフォリオ評価等を取り入れて、学習状況の質的な面を重視する。
●「思考・判断」
・ポートフォリオ評価等を適切に取り入れ、児童生徒の学習状況を質的に把握する。
・ペーパーテストだけで評価することなく、単元を通した児童生徒の変容を蓄積した上で評価する。
●「技能・表現」
・パフォーマンス評価等を取り入れ、児童生徒の実際の行動から評価を行う。
・他の評価観点と分断することなく照らし合わせながら、達成状況を把握する。
●「知識・理解」
・ペーパーテストや学習シートばかりでなく、作品やノート等、様々な評価方法を組み合わせて評価する。
・文章的な説明や口頭発表による説明等も含めた児童生徒の理解の程度についても把握する。

田中耕治編「よくわかる授業論」ミネルヴァ書房 2008　p.54-57 より

４観点それぞれの特徴を再度確認し、多面的に様々な方法を使って評価を行っていくことが大切です。



【例】小学校第３学年理科
「昆虫と植物」昆虫のからだ

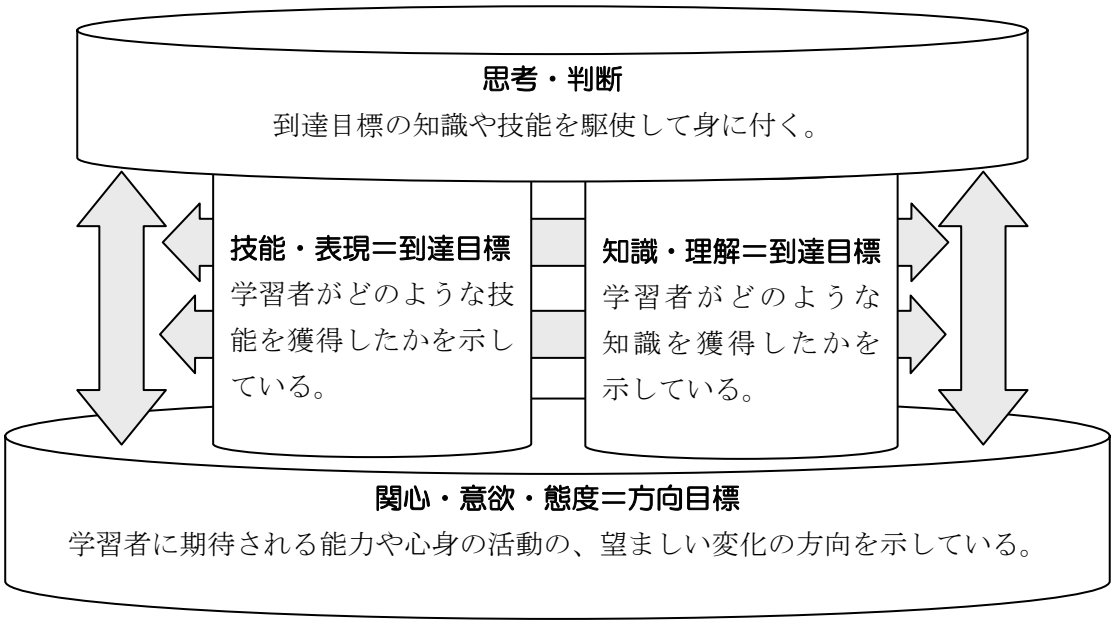
《観点別の評価規準》

自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の技能・表現	自然事象についての知識・理解
・身近な昆虫に興味・関心をもち、すすんでそれらの体のつくりを調べようとする。 ・身近な昆虫に愛情をもって、探したり育てたりしようとする。	・昆虫同士を比較して、差異点や共通点を見付けることができる。	・昆虫を探したり育てたりして、虫眼鏡などの器具を適切に使って特徴を観察し、記録することができる。	・昆虫の体は頭、胸および腹からできていることを理解する。

関心・意欲・態度（方向目標）は、単元全体を学習する際のベースとなる考え方です。単元を通して「身近な昆虫」が学習材になり、また、「愛着をもって探したり育てたり」しながら学習が展開されなければなりません。黒板に昆虫の絵を描いて、「ここは頭で、ここは胸・・・。覚えるんですよ。」ではいけないということです。

このように関心・意欲・態度に示されている内容を通して技能・表現と知識・理解が身に付いていきます。

そして、関心・意欲・態度（方向目標）をベースに、身に付いた知識や技能を使いこなして思考・判断の力が身に付きます。具体的には、身近にいる昆虫をつかまえて、その学習材を虫眼鏡などを使って観察し、体のつくりを理解します。その後、各自がつかまえてきた昆虫を比較し差異点や共通点を探すといった思考活動を通して思考・判断力を育てます。



Plan8 （計画）こんな内容を！

Ｑ　どのような点に気を付けて単元計画を作成すればよいのでしょうか？

Ａ　１時間の授業で、どのような学習が展開され、児童生徒にどのような力が付くのかを考え単元計画を作成します。

１　本時中心主義からの脱却

「児童生徒に、こんな力を身に付けてもらいたいから、この１時間はこんな展開で、そして次の時間はこんな発問からこんな教具を提示して…さらに単元指導終了後は、こんな児童生徒になってほしい！」どの教師も新しい単元を迎える前は、このように漠然とではありますが、頭の中で考えているはずです。ただ、実際にその単元に入ってしまうと今日の１時間をどう指導すればよいのかという本時中心主義になってしまいがちです。ましてや、授業研究会で公開授業を控えている場合は、学習指導案に単元計画は記載しているものの絵に描いた餅になってしまい、とりあえず、公開する本時を無難に終えたいということになってはいないでしょうか。

本時１時間の授業の善し悪しに終始することなく、これまでの指導とこれからの指導という視点に立った単元全体の計画づくり、そして、単元全体の見通しを踏まえて本時の１時間を評価することが重要です。

２　単元全体の指導の見通しを立てる力

加藤明「プロ教師のコンピテンシー次世代型評価と活用」明治図書 2008 によれば、単元計画を作成する上で教師に求められることは、次の４点です。

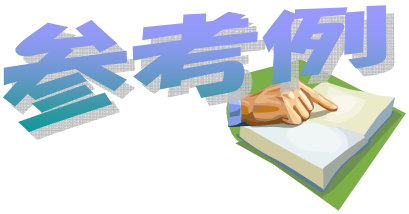
１　単元の教科内容に即して各観点から目標を明確化、具体化し単元の目標が設定できる。

２　設定した単元目標を評価からとらえ直して評価規準を設定し、それに基づいて単元末の形成的テストを作成することができる。

３　単元を学習するにあたっての前提条件となる既習の知識や技能の理解、定着を確かめ、その養成を組んだ単元計画を作成することができる。

４　次の指導要素を組み込んで単元計画を立てることができる。

ア　ゆさぶり　イ　くさびとなる体験・操作活動　ウ　習得のための主体的な学習活動　エ　適切な発問と板書による練り上げとまとめによる共有化　オ　活用のための主体的な追求活動　カ　定着と習熟のためのドリル　キ　要所での形成的評価　ク　形成的テストの誤答分析にもとづく補充指導　ケ　探究型の発展学習



普段の授業づくりにおいても同じ考え方で計画を立ててみましょう。

【単元計画と評価計画】

時	目標	学習内容	評価規準（評価方法）
1	○	・	【関】 （観察）
6 (本時)	○	・	【知】 （確認テスト） ※評価の基準については、簡潔にＢ基準を記載し、そこに到達できない児童生徒への支援方法も記載したい。

ポイント
◎　日常生活レベルでの、具体的な導入学習を位置付ける。
◎　児童生徒にとって意味のある「学習課題」を設定する。
詳細は、Plan９を参照のこと。
◎　どう指導事項を配列するか、Plan４で説明したＧ・Ｐ・Ｓ・ＴＴのＰ（学習のプロセス）を明確にする。

Plan9「学習課題」についてとの関連を図る。

Plan4のProcessとの関連を図る。

ポイント
◎　Plan４で説明したＧ・Ｐ・Ｓ・ＴＴのＳ（具体的な学習活動）を確定し記載する。（国語であれば具体的な言語活動＝表現様式、算数・数学であれば算数・数学的活動、理科や社会であれば実験・観察や調査活動など）
◎　それらの具体的な学習活動を確実に行うことができるようにモデル学習を位置付ける。
◎　「分かりやすく」「まとめる」「深める」などの抽象的な学習活動の表現を具体化する。
例：×「～を理解できる」→○「～を説明することができる」、○「～を工夫して～することができる」
◎　それぞれの過程で具体的に身に付けさせるべき事柄を列挙する。
◎　学習形態の工夫も考える。（個・ペア・グループ・一斉など、なぜその形態が有効なのかを常に考え、形態ありきにならないように気を付ける）

Plan4のStyleとの関連を図る。

※　評価規準は、「学習指導要領」や「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料」（国立教育政策研究所）を基に作成します。

※　評価規準は、児童生徒の具体的な姿がイメージできるように表します。

※　本単元で身に付いた力が、今後、どの単元や各教科等に関連し活用されていくのかを考え次の単元の準備を行います。

P８

Plan9 （計画）こんな内容を！

Ｑ　本時の計画は、どのように作成すればよいのでしょうか？

Ａ　単元目標・単元計画を受けた本時の目標、学習課題、評価などになるようにします。

１　単元目標・単元計画の流れを受けた本時の指導

児童生徒にとっても教師にとっても、毎時間が本時です。授業研究における本時は充実していたのに、次時からはトーンダウン…ということでは意味がありません。また、本時案を詳しく検討していくことは大切ですが、本時を重視するあまり単元目標や単元計画と乖離した内容にならないように留意する必要があります。

２　１時間の様子が見える本時の目標

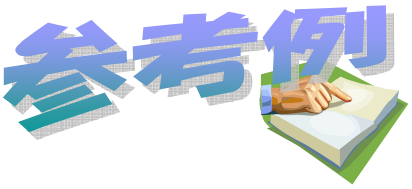
「こんな教材を使ってこんな具体的な学習活動を行うことで、児童生徒にこんな力が身に付きます」ということが、本時の目標の中に表現されていなければなりません。その際、上記のとおり、単元目標や単元計画の中の１時間というとらえの中で目標を設定していきます。そして、その目標を基に、学習課題や評価計画が作られていきます。

３　児童生徒の視点を大切にした学習課題

本時の目標を達成するための学習課題であることはもちろんですが、児童生徒に示すことを考え、分かりやすい言葉に置き換えていく必要があります。例えば、小学校の低学年に「ＡとＢを比較して（比べて）気付いたことを発表しましょう」と提示しても、児童は具体的に学習活動をイメージすることはできません。「ＡとＢの違うところ（似ているところ）たくさん見付けましょう」と、「比較」ということばを分かりやすく表現するだけで、具体的な学習活動が明らかになります。

４　本時の目標の裏返しとなる評価

本時の目標を達成するために行った指導や学習形態などが、児童生徒に適切だったのかを確かめる必要があります。そして、適切でない場合は、すぐに別の指導に変更しなければなりません。これが「指導と評価の一体化」という考え方です。本時の目標を受けて、それを具現化した評価規準を設定し、さらに、その評価規準に即して、児童生徒がどの程度到達したかどうかを判断する評価基準を設定します。評価のための評価にならないように、目標を受けた内容であるか、１時間で行うのに適切な目標や評価規準の数になっているのかを十分考慮します。



普段の授業づくりにおいても同じ考え方で本時の計画を立ててみましょう。

【本時の指導】

（１）目標…この１時間で行われる学習が具体的にイメージできるように！

◎こんな教材を使って

◎こんな具体的な学習活動を通して

◎こんな力が身に付く

（２）具体の評価規準（展開案の中に入れても可）

（３）展開

段階	学習活動と予想される児童生徒の反応	指導上の留意点（・）と評価（☆）
（　分）	1　前時の確認 2　学習課題の確認 **学習課題** 【条件】 ◎　解決しようと意欲がわく課題 ◎　解決の必要感がある課題 ◎　解決の仕方が分かる課題 ◎　解決した時に本時の目標に近づく課題 **ポイント** ◎　学習課題を解決するために、児童生徒に確認したり、必要な知識として教えたりすることを明らかにする。	**ポイント** ◎　「人に説明ができるか」という観点で理解度を測定する。 ○　「C」の子どもへの配慮事項を明記する。 ○　「具体的な評価規準」や評価方法について記述する。 **ポイント** ◎　児童生徒が誤解しそうなことを課題にする。 例：小・算数・体積…「表面積によって体積を比較してもよいか？」 ◎　児童生徒の既知内容を活用して考えさせる課題にする。 例：小・理科・てこのつりあい…「複数のおもりをつけてつりあう時の条件を考えよう！」 ◎　児童生徒が実際に活動してみた結果を考えさせる課題にする。 例：実技教科…「なぜうまくいかないのか？」「どうすればうまくいくのでしょうか？」
（　分）	**ポイント** ◎　学習活動の文言は、単元で付けたい力を具体的に説明している内容にする。学習指導要領解説にあるＴＴ（テクニカルターム）をしっかり解釈して記述する。 ・　指導上の留意点には、実験や調査などの具体的な学習活動におけるやり方やポイントなどを記述する。 ・　児童生徒の反応には、児童生徒が使いこなせるようになってほしい「具体的な言葉や文」が含まれている。 ・　評価項目は、単元で重点化する指導事項の能力と一致している。 ◎　学習課題について、じっくり考えたり（思考）、決定したり（判断）、表したり（表現）する場面を設定する。 ◎　自己評価活動を通して、「自分が分かったことは何か」「分からなかったことは何か」を自己診断（メタ認知）させる。	Plan4 の Technical Term との関連を図る。

Plan10（計画）こんな内容を！

Q　他の教員が作成した学習指導案について共通理解を図る際のポイントは何でしょうか？

A　作成した教員が、どういう考えのもと、教材をとらえ、児童生徒を分析し単元計画を立てたのかを読み取ることが大切です。

1　学習指導案は教師が作成する論文

学習指導案は、教師が作成する論文です。教材や児童生徒の実態を分析し、どのような計画でどう指導を行えばよいかを説明しています。もし、言葉でうまく説明ができないということならば、具体的で分かりやすい指導が行えないと言っても過言ではありません。学習指導案を作成することは、教師の指導力を高める上で大変意味のあることです。

2　参考文献・先行実践例などの共有

学習指導案を作成することは、学術的であり、それだけに、創造的でなければなりません。作成の際は、少なからず参考にした文献や先行実践などがあるはずです。そういったものを周知することで、授業者の基本的な考え方や授業づくりの土台となるものを共有することができます。作成する上で引用したり参考にしたりした文献・先行の実践例などを、学習指導案に明記してみましょう。

3　学習指導案の精読

授業者が作成した学習指導案を、じっくり読むことが大切です。参観者は、本時の授業がどのような内容でどう展開するのかだけを確認するのではなく、授業者が、どのような考えをもって授業づくりを行ってきたのか、また、どのような児童生徒の変容を目指しているのかなどについても理解しておくことが必要です。また、読んでみてどうしても理解できない点や不明な点などについては、授業者に事前に質問しておくことも共通理解を図る上で大切です。

4　初見の学習指導案を読む際のポイント

初見の学習指導案を手にした時、いきなり本時から読むことは避けましょう。単元計画の中で、本時はどういう位置付けになるのか、そのために、児童生徒はこれまでどんな学習を展開してきたのか、さらには、どんな力を付けるためにどう教材をとらえているのかなど、単元計画という大局的な視点から、児童生徒の実態を把握し、本時という細部を見ていく必要があります。

「木を見て森を見ず」になってはいけません。

学習指導案に「参考引用文献」の項目を入れる

指導案に記載されている内容が本人の考えに基づいたものなのか、誰かの考えを参考にした内容なのかを明らかにします。参考にした著書や資料を記載することで、他の教員との間に共通理解が生まれます。

P10

5　本時の指導
（1）目標
（2）具体の評価規準（展開案の中に入れても可）
（3）展開

段階	学習活動と予想される児童・生徒の反応	指導上の留意点（・）と評価（☆）
（　分）	1　学習課題の確認 学習課題	○
（　分）		

（4）板書計画

6　参考・引用文献
（1）文部科学省　小学校学習指導要領解説「算数」p○○～△△　2008
（2）□□市立●●小学校　山形太郎教諭　第４学年１組算数科指導案　2008.10.17
（3）▲▲■■著　◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇　◆◆◆出版社　2008

学習指導案に「参考・引用文献」の項目を記述し効果をあげたＡ学校研究主任の声

指導案に示されている文献を購入し大変勉強になったという声が職員室で聞こえました。私も購入して読んだところ得るものが大変多くあり、校内研究通信を通して内容を紹介しました。また、その本の筆者である××大学の○□先生に講師としてお越しいただき、ご指導をお願いできました。

初見の学習指導案を読むポイント

初見の学習指導案を読むポイント
３か条

１　単元名や教材をそしゃくする
・　いきなり本時を見るのではなく、単元名や教材から推測して自分なりの大まかな単元計画を考える。

２　単元計画を見る
・　自分が考える大まかな単元計画と比較しながら相違点に着目する。

３　教材観や児童生徒観などを読む
・　授業者は、どうしてこういう単元計画を立てたのか？または、どうしてこの本時を取り上げたのかを考えてみる。

このポイントのとおり学習指導案を読み授業参観をしていたＢ学校の先生の声

よい意味で批判的に学習指導案をとらえることができました。「私だったら、こう指導したいのに、授業者の先生はどうして…」という視点で、学習指導案を読み、授業を参観しました。「指導観にある指導の手立てが本時でどう生かされていたのか」「単元計画の中に本時を位置付ける必要があったのか」など、自分なりの疑問を事後研究会で話し合うことができました。

Plan11 （計画）こんな方法で！

Q　事前研究を重視し過ぎると、授業者の持ち味が失われませんか？

A　児童生徒の実態を、より的確に多角的に把握するためには多くの教職員の情報が役に立ちます。

1　教員間における「協同的な学び」

「協同的な学び」については、学習指導要領や、やまがた教育コミュニケーション改革で、その大切さが示されています。なぜ、「協同的な学び」が必要なのでしょうか。児童生徒だけでなく教員間でも「協同的な学び」を重視していくという視点から、協同的に学ぶ価値を考えてみたいと思います。

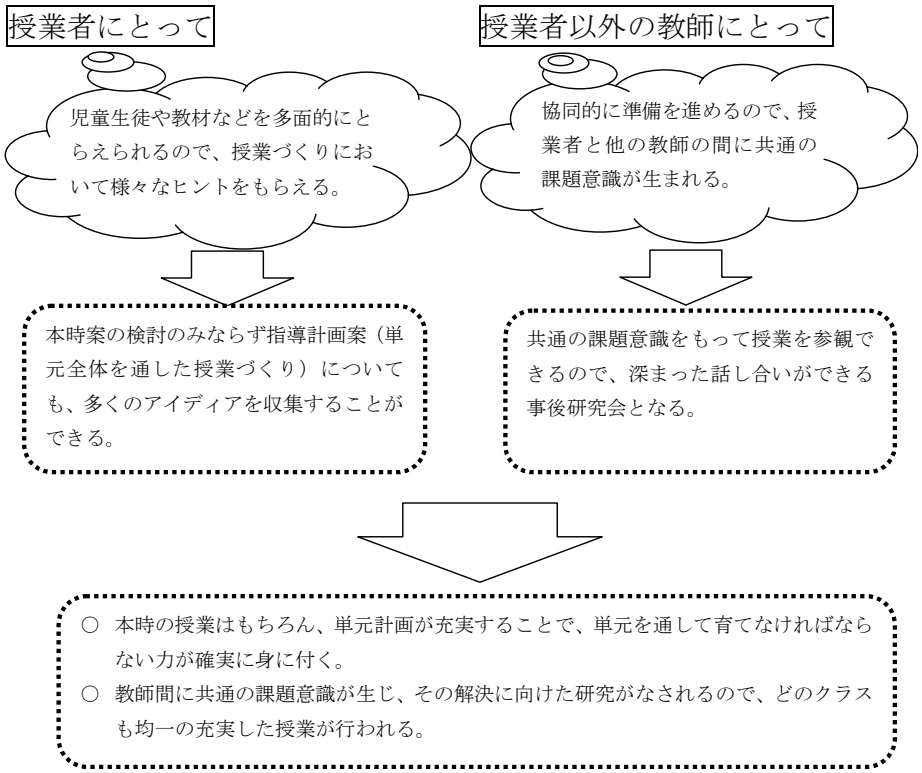
【協同的に学ぶ価値】

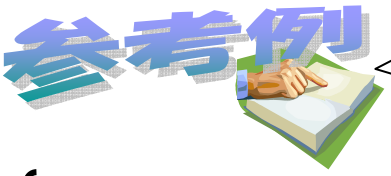
1　多様な情報収集につながる。
2　異なる視点から検討ができる。
3　相手意識を生み出したり、活動のパートナーとしての仲間意識（同僚性）を生み出したりすることができる。

このことは、知的・創造的活動である事前研究（「授業づくり」）においても必要になる視点です。

2　事前研究の長所

事前研究の長所を「授業者の視点」から、そして、「授業者以外の教師の視点」から考えてみました。





授業研に向けて何度か事前研究会を開いている事例（天童市立長岡小学校）第３学年国語・指導領域「Ｂ　書くこと」・教材名【説明文「広い言葉、せまい言葉」　教育出版下】

授業者が最初に提示した単元計画

第１次（2 時間）
1　教材文「広い言葉、せまい言葉」を全文通読し学習計画を立てる。（2 時間）

書く学習に多くの時間をかける。

第２次（５時間）
~~1　大段落１から「広い言葉」とは、どんな言葉をさすのか、整理する。（1 時間）~~
~~2　大段落２から「もっと広い言葉」とは何か整理し、理解する。（2 時間）~~
~~3　大段落３から、「もっともっと広い言葉」とは何か整理し、理解する。（1 時間）~~
~~4　大段落４から、せまい言葉、広い言葉とは何か整理し、理解する。（1 時間）~~

第３次（4 時間）
~~1　「広い言葉、せまい言葉」の型にあてはめて、説明文を書く。（4 時間）~~

必要のない活動を削除する。

第４次（９時間）
1　自分の説明文のテーマを決める。（2 時間）
2　組み立てメモをつくる。（3 時間）

組み立てメモのポイント
①はじめ＝調べようとしたわけ
②　中　＝調べたこと
③おわり＝調べてみた感想

表現様式（説明文）を意識した視点を設定する。

3　わかりやすい説明文を書くために必要なことは何か、話し合う。（1 時間）
4　組み立てメモをもとに、説明文を書く。（2 時間）
5　説明文をみんなで読み合い、評価する。（1 時間）

評価の観点
①順序よく書いてある
②はじめ・中・おわりがある
③説明文を読んだ感想

推敲の時間を設定する。

◆授業者の声

子どもの実態を把握している担任が計画した単元構成の流れを、たくさんの方からご指導いただいたことで、より充実した計画になったと思います。
また、単元計画は、どんな力を付けるためにどんな学習を仕組むのか、大切に話し合うべきものであることを教えてもらいました。

◆児童の変容

・文章を書くことが苦手な子どもが「書く」ことに取り組むようになった。友だちから推敲してもらうことを意識して、書く必要感をもてるようになったからだと思う。
・推敲されたことをもとに全員が語り、全員が友だちの意見を受け止めながら考える活動は、話すこと・書くこと・聞くことが得意な子どもも苦手な子どもも全員が発言できる学習の場であった。友だち同士の関係が深まった感じがする。
・友だちに推敲してもらったことが、次の書く活動につながっていった。

事前研究後の指導案

第１次（4 時間）
1　自分が書く説明文のテーマを決める。（2 時間）
2　「説明文を書く」ための目的を持つ。（1 時間）
3　説明文作りの学習活動計画を立てる。（1 時間）

第２次（3 時間）
1　既習の学習内容から説明文の書き方や文章構成を読み取る。（1.5 時間）

読む視点
～はじめ～
①対象の簡単な説明がある。
②疑問の文がある。
～中～
①疑問についての説明がある。
②説明の仕方には２種類ある。
　ア．時間的な順序にそって説明
　イ．対象ごとに説明
～おわり～
①疑問文の答えになる内容をくり返している。
②説明文を書いてわかったことや明らかになったことを書いている。

2　『広い言葉、せまい言葉』から書き方や文章構成を読み取る。（1.5 時間）

読む視点
①段落がある。
②文中に絵や写真がある。
③順序を表す言葉がある。

第３次（13 時間）
1　組み立てメモを書く。（4 時間）

書くことの視点
①はじめ＝疑問文にする。
　　対象を簡単に説明する。
②　中　＝疑問について説明する。
③おわり＝答えをくり返す。
　　わかったことや明らかになったことを書く。

2　組み立てメモをもとに、説明文を書き，できた説明文を友達と推敲し合う。（6 時間）

推敲のポイント：「はじめ」
・疑問文の型になっているか。
・説明しようとすることの特徴が簡単に説明されているか。
推敲のポイント：「中」
・「はじめ」の答えになっているか。
・書く順序はよいか。
・必要に応じて、段落があるか。
推敲のポイント：「おわり」
・わかったことをまとめに書いてあるか。

3　できた説明文を公民館などに展示する。（1 時間）
4　説明文を幼稚園で発表できる型にする。（2 時間）

実践のポイント

○　教師の持ち味は集団の中で生かされてこそ、初めて効果を発揮します。自分の考えを多くの人に周知すること、そして、多様な情報からより質の高い情報を取り入れること、そして、異なる視点から検討し画一的でない深まりのある結論を見いだすことが大切です。そうすることで、質の高い授業を児童生徒へ提供できます。

Plan 12 （計画）こんな方法で！

Ｑ　事前研究でもワークショップ型の話し合いをしたいのですが、何かよい方法はありますか？

Ａ　７つの実践例を紹介します。各自・各学校に合う例を実践してください。

１　ワークショップの特徴

事後研究会では、ワークショップ型の話し合いを行って、成果を上げている学校が多くあります。ワークショップのポイントは次のとおりです。

１　「具体性の原理」
　ワークショップ型で話し合いを行う場合、具体的な内容の課題を取り上げます。

２　「自主性の原理」
　参加者の自主的な態度が大切です。他人の意見や主張に付和雷同して話をすることは厳禁です。

３　「協同性の原理」
　考えの違うメンバーが、意見や主張を出し合う中で、一つの秩序だったものへと変容していきます。

２　ワークショップ型事前研究の長所

このような特徴を持つワークショップ型の話し合いを、事前研究にも取り入れることで、より充実した授業づくりを行うことができます。事前研究にワークショップ型の話し合いを取り入れることの長所は次のとおりです。

１　人数の多い少ないに関係なく、参加者全員の意見や考えを知ることができます。
２　授業者の抱えている課題を共有できます。
３　時間を決めて話し合いができます。（長時間話し合うことも短時間で済ますことも可能）
４　話し合った内容が形として残るので、見直すことができます。

３　ワークショップの具体例７つ

ここでは、単元を構想する際に有効な、ワークショップ型の事前研究を７つ紹介します。

いずれも、村川雅弘教授（鳴門教育大学）によるワークショップ型の研修方法を参考にした内容です。教師の世代や専門性を越えて、また、主体的かつ協同的に授業づくりを行う上で大変有効な手法です。

【ワークショップ型事前研究７つの例】
１　教科書と学習指導要領解説を使った単元構想案づくり
２　経験単元：総合的な学習の時間の単元構想案づくり
３　過去の指導案を基にした単元構想案づくり
４　異教科の教師間で行う単元構想案づくり
５　日常的に行える、指導の重点を明確にした単元構想案づくり
６　他校の教科担任と協力して行う単元構想案づくり
７　○○の得意な教師を生かした単元構想案づくり

☛Plan２・３・４も、確認してみよう！

ワークショップ型事前研究①
（教科書と学習指導要領解説を使った単元構想案づくり）

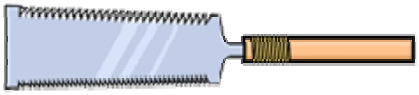
例えば、中学校技術（実技教科）では、教師の説明を丁寧にするあまり、製作の時間が十分に確保できないことがあります。

P 12

「部品の加工」－材料を切断しようーの授業

陥りやすい展開

木材切断に使う両刃のこぎりの使い方の説明



教師が行った指導事項
- 両刃のこぎりの各部名称
- 横びき、縦びきの仕方
- のこぎりを引く角度
- 使い方の注意
- 両手引きの仕方

教師からの一方的な説明により、生徒が実際にのこぎりを使う時間が少なくなってしまう。

授業者の声
これまでは、少なくとも１時間を確保し、のこぎりの使い方について教科書に書いてあることを、丁寧に説明し製作活動に入っていました。ところが、製作に時間がかかり作品の完成度に課題が残りました。

授業者のこのような課題を、学習指導要領解説を活用することで解決！

学習指導要領解説を読んで気付いたことを付箋に書き、KJ法でまとめていきます。

学習指導要領解説〔技術・家庭編〕ｐ１８～１９より
イ　材料に適した加工法を知り、工具や機器を安全に使用できること。
（略）この学習では、例えば材料の特徴から可能な加工法を検討させたり、工具や機器の構造及び材料を加工する仕組みに基づき、それらの使用方法を考えさせたりするなど、科学的な根拠に基づいた指導となるよう配慮する。その際、工具や機器を安全かつ適切に使用するためには正しい使用方法とともに、姿勢、目の位置、工具などの持ち方、力配分など、作業動作の要素も関連することに**気付かせる**。（略）

事前研究参加者（美術教員）の付箋
のこぎりの使い方のポイントを明確にした上で、生徒が実際に木を切りながら技能を身に付けられるようにしたらどうですか。

改善策
1　解説を読むことで指導のポイント（使用方法とともに、姿勢、目の位置、工具などの持ち方、力配分など）を明確にし、教科書に記載されている指導内容に軽重がつけられるようにする。
2　「作業動作の要素も関連することに**気付かせる**」ということから、上記の指導のポイントを一つずつ丁寧に指導するのではなく、練習材を使ってポイントを関連させて指導する。そうすることで、技能の習得にかける説明の時間を短く済ませ、製作の時間を十分に確保する単元計画になる。

実践のポイント
○　児童生徒の目線で、教科書を見ることにより、つまずきやすい点が見えてきます。担当教科以外の教師は、児童生徒の視点で、教科書を分析することができます。積極的に、担当教科以外の教師の声を聞きましょう。

参考例②

☛Plan５・８も、確認してみよう！

ワークショップ型事前研究②
（経験単元：総合的な学習の時間の単元構想案づくり）

生活科や総合的な学習の時間のように、児童生徒の経験を重視して単元を構想していく「経験単元」の際は、単元構想案を考えることが大切です。児童生徒の興味関心を把握し、「どのような学習活動が予想されるのか」「教師の適切な指導をどう行っていくか」「どのような育てたい力を付けるか」などをとらえることが必要です。

そこで、「これからどのような学習が展開されるのか」について、ＫＪ法やブレインストーミングの手法を使いながら話し合っていきます。

ワークショップ型単元構想案づくりのメリット

１　授業者にとって

（１）　どのように学習が展開していくかを予想するので、授業の準備が、ある程度スムーズに行える。
（２）　児童生徒の言動への適切な支援をあらかじめ準備できる。
（３）　授業者同士での共通理解が図られ、一貫した児童生徒への指導・評価が行える。
（４）　単元構想案と実際の児童生徒の動きとの「ずれ」を確認し、次の計画に生かすことができる。

２　校内研究全体にとって

（１）　他の学年やクラスがどのような総合的な学習の時間を行っているか、情報交換ができる。
（２）　次年度の学年・クラスへの引き継ぎが確実にできる。

実際の進め方

流　れ

１　探究的な学習の過程（「課題の設定」「情報の取り出し」「整理・分析」「まとめ・表現」）ごとに、評価規準を設定する。
２　それぞれの過程で予想される学習活動を、付箋に書く。
３　書いた付箋を紙に貼りながら、分類したり関連付けたりして予想される学習活動を決める。
４　それぞれの学習活動での「児童生徒の反応」や「準備する物」「指導上の留意点」などを付箋に書き、上記２、３と同じように進める。

評価規準は、全体計画や年間計画作成時に決めておき、ここで確認する。

児童生徒の思考過程を意識する。

アイディアを整理・分類することで共通理解を図る。

実践のポイント

〇話し合いのポイント

１　思いついたアイディアや予想される児童生徒の反応などをたくさん出す。（質より量）
２　相手のアイディアを批判しない。（多面的・総合的な授業構想）
３　少数の意見も大切にする。（可能性の探求）

参考例③

☛Plan２・４・７・８も、確認してみよう！

ワークショップ型事前研究③
（過去の指導案を基にした単元構想案づくり）

過去の指導案を基に学習指導要領解説などを確認しながら、よい点・課題・改善案を付箋に書き出して話し合います。

４　単元計画（１２時間扱い，本時１２時間目）

	主な学習活動（○）予想される子どもの姿（・）	指導上の留意点（・）　支援（☆）　評価（◆）
1	学習のめあてを知り，見通しをもとう。 ○「学習のとびら」を読み，学習のめあてを確認する。 ○冒頭文や「長なわとび」を読み，学習内容を見通す。 ・　長なわってむずかしいんだよな。ところで自分は何を書こうかな。 ・　誰に読んでもらおうかな。 ○新出漢字を学習する。	・　「中心になる場面をはっきりさせて書く」学習であることを意識づける。 ・　相手意識や目的意識をしっかりともって書く作文であることを認識させる。 ☆「例えば自分なら」という立場に立たせて，実感がもてるようにする。 ・　本単元の学習が，①中心になる場面をはっきりさせて書く方法を知る，②題材を決定する，③作文の組み立てを考える，④作文を書く，⑤推敲する，⑥発表したり友達の作文を聞いたりして感想などを述べ合う，という過程で進んでいくことをつかませる。 ◆学習の見通しがもてたか。
5・6・7	題材を決め，組み立てメモを作ろう。 ○　作文の題材を決め，中心になる場面を考えて組み立てメモを作る。 ・　どんなことを誰に書こうかな。 ・　もう一度３年生での生活を振り返ってみよう。 ・　強く心に残っていることを選べばよかったんだな。そして、その場面が中心になるんだな。	・　３年生での身近な生活の中から，友達や家族に伝えたいできごとを考えさせる。 ☆　日記なども読み返させ，様々な出来事の中から作文の題材を選ばせる。 ・　選んだ出来事の中で，一番強く心に残っている場面を中心にして，どんな場面を作文に書くのか考えさせる。そして，それをもとにして組み立てメモを作らせる。 ◆　場面ごとの気持ちを確かめて，作文の組み立てを考えているか。
8・9・10	作文を書こう。 ○　組み立てメモを見ながら作文を書く。 ・　分からなくなったら，書くときに気をつけることを見て書いてみよう。	・　これまでの学習を振り返り，気をつけることを確認させる。 ・中心になる場面は文章量を多くする。 ・会話を使って書く。 ・場面が変わるときは段落を変える。 ・会話を書くときは行をあらためる。 ・段落を変えるときは一字下げる。 ◆　中心となる場面をはっきりさせて書いているか。 ☆　組み立てメモを常に振り返らせるようにする。

ピンクはよい点

P12

題材決定→構成→記述→推敲→交流の学習プロセスが意識されていてよい。

題材を選んだり、その題材の中から中心場面を決定したりするための指導の手立てが見えない。

青は課題

「作文」という提示では具体的な言語活動が明確でない。

黄は改善案

「体験報告文」あるいは「随筆」風に言語活動を設定してはどうか。

実践のポイント

○　過去の指導案だけでなく、複数の教科書に記載されている単元計画案を準備し、上記と同じような手法でワークショップを行うことも有効です。

実践例:ワークショップ型事前研究③
（学習指導要領改訂のポイントを踏まえて過去の指導案を見直す）
ー村川雅弘先生を招聘しての研修会よりー

実際の進め方

流　れ

1　学習指導要領の改訂のポイントなどについて共通理解を図る。
2　過去の指導案を準備し、作成者が単元計画を基に概要を説明する。
3　学習指導要領の改訂のポイントを視点にして、ＫＪ法を使って話し合う。
（1）　付箋に考えられる工夫点や改善点を書く。
（2）　記入した付箋を単元計画の該当箇所に貼る。
（3）　出された付箋をグルーピングする。
（4）　グルーピングされたものにタイトルをつける。
（5）　出された工夫点・改善点を、これから実践しようとしている単元計画にどう生かしていけるかについて情報交換を行う。

時間をかけないようにするために、指導案の概要説明に対しては質問のみにし、感想や意見などは付箋に記入する。

授業者が、自分の指導にどう生かしていくのかを明らかにする。

参加者の声

単元構成全体を見ながら授業を考えると、より一つの授業のポイントが絞りやすくなることが分かりました。

様々な改善策が出されることで、自分の考えがまとまっていきました。

みんなで単元づくりをするといろんなアイディアが出て、授業づくりが楽しくできそうだと思いました。

私の授業づくりは、これまで「本時」から始まっていましたが、今回話し合ってみて単元づくりの大切さが分かりました。

その他の声

① 各自が話し合いの視点などを共有し共通の土台で話し合うことが重要だと思います。

② 出し合ったことを、どう整理してまとめていくかが大切だと思います。

③ ワークショップを取り入れるメリットは何でしょうか。

前ページの「その他の声」を分析すると　東根市立小田島小学校の実践

① 各自が話し合いの視点などを共有し共通の土台で話し合うことが重要だと思います。

○　校内研究（国語科）のテーマ

「言語活動を重視した国語科の指導」（仮題）

年度当初に学習指導要領解説国語編改訂のポイントについての研修会を行い、これからの国語における学習指導の在り方を共通理解した。それを受けて第１回事前研究会を開いたので、教員同士が共通の土台で話し合うことができた。

○　ワークショップに入る前に、講師や研究主任などから学習指導要領のポイントや話し合いの視点などについて説明をする。

○　事前にワークショップのテーマを周知し、参加者に考えてきてもらう。

○　テーマに関連した共通の資料を準備し、それを基にしてワークショップを行う。

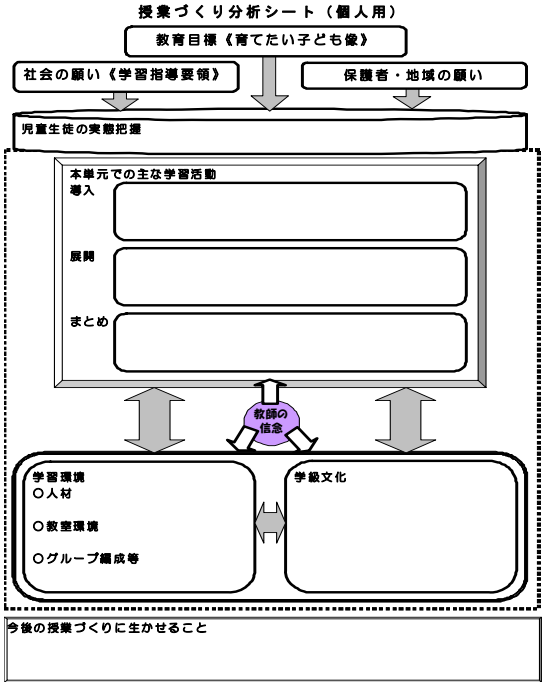
これまでどおりの単元計画では、教師主導になるね…

P 12

② 出し合ったことを、どう整理してまとめていくかが大切だと思います。

○　例えば、「授業づくり分析シート」の視点にそって、最後に振り返りの時間を設定する。

○　構造化を図った後、出された意見などを文章にまとめ、これから実践にうつせることを見付ける。



p.41「教育実践分析シート」を参考に作成

③ ワークショップを取り入れるメリットは何でしょうか。

○　限られた時間の中で、参加者全員の多様な考えを得ることができる。

○　付箋を使うことで出された考えを、自由に動かしながらまとめることが可能である。

○　出された考えが文字として残る。

○　参加者の話し合いが、どういう思考過程で推移したかが把握しやすい。　など

参考例④

☛Plan１「学習指導要領を生かす」・Plan８も、確認してみよう！

ワークショップ型事前研究④（異教科の教師間で行う単元構想案づくり）

各教科等の学習を越えて、共通に児童生徒に身に付けさせたい力（例えば、伝え合う力・物事を論理的に説明する力など）や、学習指導におけるポイント（例えば、有効な学習シートの開発・興味関心を持続させるための教材開発など）を決め、そのことについて検討し、実際の授業場面でどういう工夫をしていけばよいのかをワークショップで話し合います。教科担任制の学校でも、教科を越えて、それぞれの視点から深まった話し合いを行うことができます。

実際の進め方

流　れ

1　あらかじめ、どの教科でも共通するテーマ（例えば、「伝え合う力を高めるには？」「有効な学習シートを作成するためには？」など）を決める。

2　テーマについてＫＪ法を使って話し合う。
（１）付箋に解決策を書く。
（２）出された付箋をグルーピングする。
（３）グルーピングされたものにタイトルを付ける。
（４）出された解決策を、これから実践しようとしている単元計画にどう生かしていけるかについて情報交換を行う。

校内研究のテーマや視点になっているものでもよい。

時間があれば、テーマを設定せざるを得ない背景・原因についても話し合い、その原因の解決策を考える。

中学校での実践

※参加者：教員４名（国語、社会、数学、美術）

実際の話し合いで出された主な解決策

テーマ：「伝え合う力を付けるには？」

1　何でもかんでも「伝え合う」活動を取り入れるのではない。

2　「伝えたい」と思える材料が生徒にないといけない。

3　伝え方（表現様式）を生徒に身に付けさせる必要がある。　　など

各自がどう授業づくりに生かせるか

○社会の教員
グループでの話し合いを多用していた感がある。どの場面でどのような話し合いをすればよいのかを再考する必要がある。

○美術の教員
鑑賞の指導においては、教材の選定の工夫・鑑賞の視点の明確化・伝え合う方法の指導などに気を付けていく必要がある。

○国語の教員
表現様式（話し方：紹介・説明・報告など　話し合いの仕方：対話・討論など）をきちんと指導し、他教科との関連についても考えていきたい。

実践のポイント

○　教科の視点から解決策を出し合い、共通する解決策を見いだして指導案作成や各自の授業づくりに生かしていくことが大切です。

ワークショップ型事前研究④
（異教科の教師間で、校内研究への共通理解を深める）
山形市立高楯中学校の実践

実際の進め方

流　れ

1　今年度、校内研究で「活用型の学習」を重視していくことを全体で確認する。
2　「活用型の学習」を充実するための手立てについて、各教科の視点から、ＫＪ法を使って話し合う。
（１）各教科の視点から「活用型の学習」を充実する手立てや工夫について付箋に書き出す。
（２）記入した付箋を画用紙に貼る。
（３）出された付箋をグルーピングし構造化する。
（４）グループ間で発表し合い、共有化する。
（５）各自、振り返りを行う。
（出された意見・アイディアから、それぞれの教科に生かせそうなことを考える）

活用型の学習

P12

参加者の声

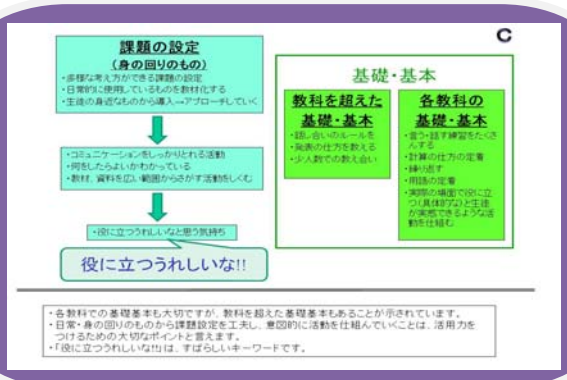
自分の教科とは違う視点からのアイディアや手立て、子どもを見る目などがあり、多面的にとらえることができました。また、自分の教科にもつながるし、生かしていけるものも見られました。

全員の考えを短時間で出し合いながら、全体像が見えてくるので、問題解決の糸口になる方法だと思いました。

表現はまちまちでしたが、その中から共通する部分を取り上げ、学校として目指す生徒像がしぼられていくと思いました。

研修会のまとめとして

ワークショップの成果物をデジタル化（ＰＣソフトはパワーポイントを使用）し、価値付けして配付しました。記録と共有化のため、全職員の手元に残る資料として活用します。（Action２参考例①の実践）



実践例：ワークショップ型事前研究④（校内研究テーマの共通理解を図る）寒河江市立醍醐小学校の実践

実際の進め方

流　れ

1　事前に話し合うテーマを決め、参加者に周知しておく。
2　以下、ワークショップの進め方は、「Plan１２　参考例④」の流れと同様である。

寒河江市立醍醐小学校での実践

○　校内研究テーマ

『学びにおける“強さ”を育てる指導』

・　今年度から新しい研究テーマを設定した。
・　研修主任は、教職員の間で研究テーマについての共通理解が必要と考え、このワークショップ型事前研究を実施した。

事前に話し合うテーマを参加者に知らせておくことで、時間をかけずに作業を進めることができた。

参加者の声

テーマ：『「問題解決力」を育てるためには、どのような手立てをとればよいか？』

問題解決力を育てるためには、まず子どもの実態把握が必要だと思いました。

単元全体の流れに沿って考えることも大切だと思いました。

学びの喜びを味わわせ、身に付けた力を生かせる場面設定も必要だと思いました。

目指す子ども像・子どもに付けたい力を、もっと明確にする必要があると思います。

発達段階によっても、大事にしたい基礎・基本は違うのではないでしょうか。

私たちの中で「問題解決力」のとらえ方が様々な気がします。

ワークショップ後のアンケートより

＊　ワークショップを行うことで、はっきりしなかった課題が精選され、共通のものとして見えてきた。次の一歩をどうすればよいかが、大きな課題と考えた。

＊　研究テーマの共通理解がねらいであったが、研究初年度ということから考えると、さらに研究主題を絞り込み、じっくり課題を出し合っていくことが必要と考えた。

書く活動を通して、参加者一人一人が現在直面している課題に、真剣に向き合うことができた。

書き出した付箋紙のグループ化・構造化の作業を協同で行うことで、共感を伴いながら整理をすることができ、共通理解につながった。

参考例⑤

☛Plan２・４・７・８も、確認してみよう！

ワークショップ型事前研究⑤
（日常的に行える、指導の重点を明確にした単元構想案づくり）

新しい単元に入る前に、学年部会や教科部会で、各教科の指導で課題になっている点やおさえなければならないポイントをもとに指導の重点を明確にします。その上で、単元計画を立てます。

実際の進め方

P12

流　れ

1　単元の特徴をとらえ、指導の重点を決める。（例えば、算数において「算数的活動を大切にして思考力を付けるには？」など）
2　教科書の単元計画をもとに、指導の重点を生かすにはどうしたらよいかを話し合う。
3　単元計画に気付いたこと（指導の工夫や留意点など）を記入した付箋を貼っていく。
4　指導の過程にそって付箋をまとめ、グルーピングする。
5　グループに見出しを付けて実践可能かどうかを吟味する。
6　実践可能な内容をまとめ、教員間で共通理解を図る。

指導の重点を決めるのに時間がかからないよう、学年会などであらかじめ決めておく。

３～４名での話し合いであれば、単元計画をＡ３に拡大したものを準備し話し合う。

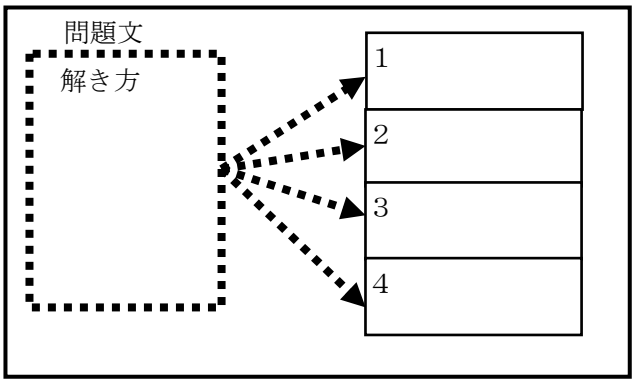
小学校での実践

※参加者：３年生の担任団３名

実際の話し合いで出された主な内容

指導の重点：「算数的活動を大切にして数学的思考力を付ける」
～乗法の計算～
○　算数的活動において、計算の仕方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして考え説明する活動を重視する。そのために、学習シートの工夫を図る。
など

この話し合いをもとに、学年の算数担当の先生が作成した学習シート



【工夫】
解き方をいったん左欄に記述し、それを４分割で記述ができるように欄の作り方を工夫することで、自分の解き方を順序立てて説明することが可能になる。

実践のポイント

○　できるだけ時間をかけないで、気軽に話し合えるように事前の準備は、単元計画をＡ３に拡大コピーする程度にします。

「教科を貫く国語力」2008 山形大学より

参考例⑥

☛Plan４・１２①・１４も、確認してみよう！

ワークショップ型事前研究⑥
（他校の教科担任と協力して行う単元構想案づくり）

中学校の事前研究では、どうしても教科の専門性を生かして単元を構想していく必要があります。県内の中学校を見ると、国語や数学などのいわゆる５教科担当の教師は比較的人数がいますが、音楽や美術などの実技教科の教師は、校内に１人多くて２人といった状況のようです。特に、同一教科担当者が少ない教科において有効なワークショップ型事前研究です。

進めるにあたって

長期休業中に近隣の中学校の同一教科担当の教師が集まり、新学期の最初の単元構想案づくりを協同で行います。

実際の進め方

流　れ

1　新学期最初の単元について、教科書の単元計画や過去の実践された指導案を拡大コピーしておく。
2　話し合いについては、Plan１２参考例①、③などを参考に進める。
3　実践後、実践した成果と課題を持ち寄り検証する。

事前に時間が取れるようであれば、各自で単元計画案を持ち寄り、Plan１３の「持ち寄り単元構想案」を活用して話し合いを行う。
※　具体的な進め方は Plan１３を参照

時間があれば是非行いたい。やりっぱなしにならないように、成果と課題を共有し、各自の実践に生かすようにしたい。

教員の声
本来であれば一人で新学期の準備をしなければならないのですが、複数で行うと楽しく授業づくりができました。他校の様子についての情報交換もでき、大変参考になりました。

実践のポイント
○　あまり時間をかけないように、あらかじめ細かなタイムスケジュールを作成しておきます。

参考例⑦

☛Plan２・４・５～９も、確認してみよう！

ワークショップ型事前研究⑦
（〇〇の得意な教師を生かした単元構想案づくり）

例えば苦手な教科（音楽）の授業づくりを充実させるために、その教科が得意な教師に具体的な授業づくりの話をしてもらい、そこから勉強になったことをメモに取り、　単元構想案に生かしていく手法です。校内でもできますが、校外からその教科の指導に長けた講師を招聘して行うのもよい方法です。

P 12

実際の進め方

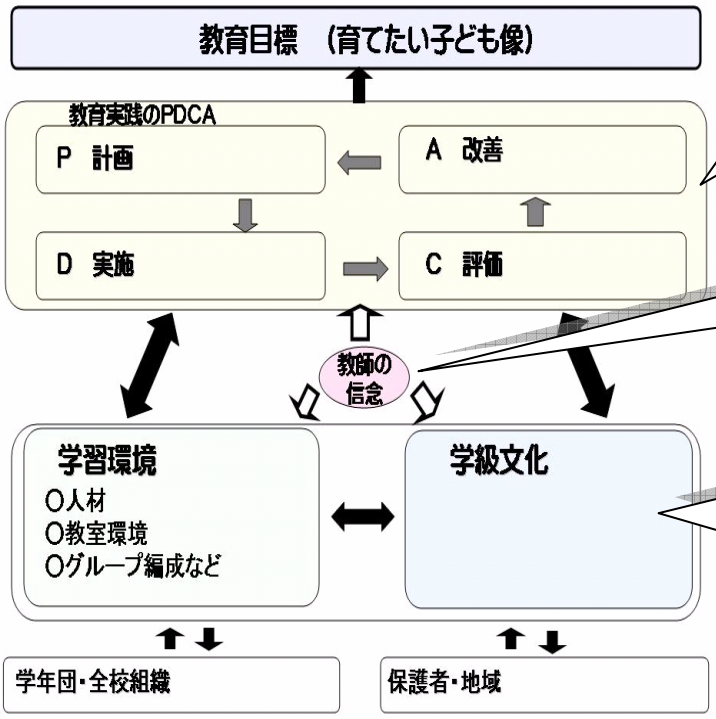
流　れ

1　講師から実践報告をお聞きする。
2　参考になった指導の手立てを、「教育実践分析シート」の観点に沿って考え付箋に記入する。
3　講師の先生に質問をする。
4　貼りだした付箋（指導の手立て）を構造化する。
（１）付箋をグルーピングする。
（２）グループに見出しを付ける。
（３）整理・分析を行う。

感想を何でも書くということではなく、焦点化して深まった話し合いになるよう「指導の手立て」についてのみ記入する。

多く出された手立てを、どういう順序で指導していくか、または、手立てを組み合わせてより充実した内容にできないかなどを検討する。

教育実践分析シート



田村知子 2005 を参考に江口慎一作成

一単元の指導を通して、どのような単元計画を立てたのか、また、一時間一時間をどう実践・評価し指導改善を図っていったのかという視点で考える。

教師が大切にしている価値観や考え方、児童生徒に伝えたい思いなどについて考える。

〇　児童生徒との関係をつくる工夫
〇　学習に対して児童生徒の意識を高めるための工夫
〇　学級の雰囲気を高める教師の工夫などを考える。

実践のポイント

〇　不得手教科の指導の手立てを学ぶことで単元計画の見直しを図ります。

Plan13（計画）こんな方法で！

Ｑ　事前研究が、授業者任せにならない何かよい方法はありませんか？

Ａ　「持ち寄り単元構想案」での事前研究会を紹介します。

１　切実感や必要感のある授業研究

事前研究は、これまでどちらかというと、指導案づくりから教材の準備まで、全て授業者に任され、協力者や参観者は受け身的な態度で授業研究に臨んでいたところがあるのではないでしょうか。

そこで、協力者や参観者が、主体的に授業研究に臨み授業者が行う授業や作成した指導案に切実感や必要感を持てるようにします。そのために、協力者や参観者が、自分の考えた単元構想案（自分だったらこう指導する案）を持ち寄って事前研究を行います。

２　「持ち寄り単元構想案」で事前研究を行うメリット

「持ち寄り単元構想案」で事前研究を行うメリットを考えてみます。

１　授業者にとって

（１）　様々な単元構想案と自分の案を比較することで、多角的に授業づくりを行うことができる。

（２）　お互いに単元構想案を作成しているので、共通の課題意識が生じ、事前研究で話し合う視点が明確になる。

２　協力者と参観者にとって

（１）　授業者の指導案と自分の案を比較することで、授業者と同じ課題意識をもつことができる。

（２）　課題意識が生じるので、本時の授業を参観する際の視点が明確になる。

３　校内研究全体にとって

（１）　授業者が行う本時の授業や指導案への課題意識が高まり、授業に対して切実感や必要感が生まれる。

（２）　授業研究や授業改善への意欲が高まる。

参考例

☛Plan５・８・10も、確認してみよう！

持ち寄り単元構想案

「持ち寄り単元構想案」で
事前研究を行った教員の主な声

◆授業者…Ａ先生の単元構想案がおもしろいと思いました。参考文献が載っていたので、早速、購入しました。実験で得たデータを分析し考察する際のポイントが分かりやすく解説されており、単元計画の中でも生徒の興味をもたせづらい数時間の単元構成づくりに役立ちました。

◆Ａ先生…これまでは、他の先生の授業＝他人事という感が否めませんでしたが、自分の考えてきた案を取り上げてもらったことで、自分の授業のように思えてきました。

◆その他の先生…同じ単元でも４人がそれぞれ違う計画になっていて新鮮でした。クラスの実態に応じてよいとこ取りしていけば、かなり充実した単元計画になると思いました。

P13

実際の進め方

流　れ

1　授業者は、事前に、クラスの児童生徒の実態を協力者や参観者へ知らせておく。

2　協力者や参観者は、児童生徒の実態を基に、単元構想案を各自で考える。その際、自分だったらこう考える、こうしたいという視点で作成する。※参考にした資料・文献などの出典を明らかにしておく。

3　事前研究では、各自が考えてきた単元構想案と授業者が考えた案との相違点に着目し、話を進めていく。（なぜ、相違が生じたのか。あるいは、どちらの案が児童生徒にとって有効なのかを検討する）

4　事前研究では、周囲の人が無理に結論を出さず、授業者が最終的に決定できるようにする。

Plan３で紹介した児童生徒の実態把握の仕方を参考にする。

・　校長や教頭など、学級担任でない先生方にも協力してもらう。
・　参考にした文献などを明記することで、他の先生方の勉強のきっかけとなる。

最後は授業者の主体性を大切にする。

実践のポイント

○　時間をあまりかけたくない場合は、

1　全単元の構想案を考えるのではなく、授業者が困っている箇所を絞って構想案を作成します。そうすることで、短時間で授業者のニーズに合った事前研究を行うことができます。
　また、各自が作成した単元構想案は、事後研究の際にも活用し、実際の単元構想以外の可能性を探っていきます。

2　教科書で示している単元計画を持ち寄り、そこから検討をしていきます。

Plan14（計画）こんな方法で！

Q　授業研究会で、本時は単元計画のどの時間を行えばよいでしょうか？

A　指導のやりにくい場面をあえて取り上げます。そうすることで、共通の課題意識が生まれます。

1　教師が日常的に課題をもっている時間を公開

授業づくりが授業者のみに任せられると、他の教師との意識のずれが生じることがしばしばあります。例えば、指導案が配られ本時の授業を参観したとします。

「この時間（発表会の時間）ではなく、その前の時間（発表会に向けた指導や準備の時間）を参観したかった…」ということや、「自分のクラス（教科）には、この授業は関連性がなくて参考にならないな…」ということを感じられた時はないでしょうか。

また、授業研究会となると、どうしても授業者は、身構えしてしまい普段の授業というよりはよそ行きの授業になってしまいがちです。そうなると、「授業研究のための授業公開」になってしまい、教員同士のお互いの高まりも期待できない状況に陥ってしまいます。

そこで、このような課題を解決するために授業研究会で公開する本時を授業者が決めるのではなく、他の教員の声を参考にしながら決定します。

具体的には、多くの教師が、日常的に課題をもっている時間を本時として取り上げ、代表として授業者にその時間を公開してもらうようにします。そうすることで、協力者や参観者は共通の課題意識をもって授業研究に臨むことができます。

2　指導のやりにくい場面を本時で取り上げる長所

指導のやりにくい場面を本時で取り上げる長所を考えてみます。

1　授業者にとって

○　日常的に課題としていた場面にチャレンジができる。
○　提案性のある授業となる。

2　協力者と参観者にとって

○　課題意識をもって必要感と切実感をもって授業を参観できる。
○　日常の授業に生かせる。

3　校内研究全体にとって

○　必要感と切実感のある授業研究となり、授業改善につながる。

本時選定の工夫
本時は指導のやりにくい場面を！

☛Plan６・７・８も、確認してみよう！

実際の進め方

P14

流　れ

1　授業者が扱う教科や単元に関する日常的な指導上の課題を明らかにする。
2　授業者が扱う単元の中で「やりにくい」場面（内容）を決め、本時として取り上げる。
3　指導案づくりも授業者にすべて任せするのではなく、単元計画についてはみんなで考え、検討する。検討する際は、Plan１２で紹介したようなワークショップを行ってみる。

日ごろ感じていることを率直に出してみる。

前ページで紹介した持ち寄り単元構想案の手法も有効である。

指導のしにくい場面を取り上げることで教科指導の本質的な課題が明らかになった事例

【天童市立長岡小学校の実践】

第３学年国語科「Ｂ書くこと」中心をはっきりさせて書こう（強く心にのこっていることを）の取組から

授業者から出された本質的な課題

- 「中心をはっきりさせて書く」とあるが、ここでの「中心」をどう定義し、どう児童に理解させればよいかが難しい。
- 児童に相手意識をもたせることが難しい。
- 構成（はじめ・なか①・なか②・おわり）メモを基にしながら文章化させるのが難しい。

授業者だけでなく、授業づくりの協力者・参観者にとっても共通の課題であり、事後研究会の柱にもなった。

実践のポイント

○「やりにくい」とは、次のような場面です。

（１）　教師がやりにくい
　①　児童生徒の興味関心が低い場面
　②　スキル的な力を付けるために座学中心になる場面
　③　評価の観点のうち「思考力・判断力」を児童生徒に身に付けさせる場面
　④　評価が難しい場面　など

（２）　児童生徒が理解しづらい
　①　児童生徒の経験が乏しく具体的なイメージがもてない場面
　②　抽象的な概念が必要な場面
　③　新たな概念が必要とされる場面　など

Plan15（計画)こんな方法で！

Ｑ　「模擬授業」を行うことで、どのような効果が期待できますか？

Ａ　学習課題や教師の指示が児童生徒にとって適当かどうかを短時間で確認することができます。

１　模擬授業の長所

模擬授業には多くの効果があります。授業者の授業力向上はもちろんのことですが、児童生徒役になる教員の授業力向上、ひいては、校内研究全体の活性化にもつながります。

模擬授業の長所を考えてみます。

１　授業者にとって

（１）　本時案の流れが児童生徒の思考過程に合致しているかを確認できる。

（２）　時間の配分を確認できる。

（３）　的確な発問の仕方について確認できる。

（４）　分かりやすい板書について確認できる。

２　児童生徒役の教員にとって

（１）　授業を参観する際の視点を共有できる。

（２）　児童生徒の気持ちを理解することができるので、児童生徒の立場で授業を構想する習慣ができる。

３　校内研究全体にとって

（１）　授業研究や授業改善への意欲につながる。

（２）　若い教員の勉強の場になる。

（３）　本時の授業への課題意識が高まり、事後研究会が充実する。

２　単元計画の見直し

模擬授業を行うと多くの場合は、「学習課題が抽象的で児童生徒に理解されないのでは？」「この指示では児童生徒が何をしたらよいか分からない」などの課題が出てきます。課題が生じれば、本時案を見直したり、解決策を考えたりしなければなりません。その際、単元計画そのものを見直す必要がないかどうかについても検討することが大切です。

参考例 模擬授業

☛Plan８・９も、確認してみよう！

授業者の声（中学校）

はじめは、正直、面倒くさいと感じていましたが、実際行ってみると、学習課題が漠然としているために、生徒が何をすればよいかが分からないことが明らかになりました。それに関連して、単元の単元計画や評価計画も改善を図ることができました。

児童生徒役の教師の声（中学校）

学習の流れを確認し指導案についての共通理解を図ることができました。それに加え生徒の立場になることができ、教師の発問や指示をどういう気持ちで聞いているかを体験でき参考になりました。

P15

時間のないときは、こんな進め方を

流　れ

1　導入部分は、指導案で確認する程度にして、すぐに展開部分に入る。

2　児童生徒役の指導案は回収する。（教科書や資料などのみを配り子どもの気持ちになってもらい模擬授業に臨む。）

3　授業者は、実際に児童生徒を目の前にしているものと仮定し、児童生徒に話しかける口調で授業を進める。

4　児童生徒役は、授業者の働きかけ（発問や指示、教材提示など）だけをもとに、反応（挙手、回答、つぶやき、作業、思考など）する。

時間に余裕があれば導入から行う。

児童生徒役の教員の人数が多ければ、積極的な児童生徒、消極的な児童生徒、程度の役割を決める。

恥ずかしさを捨て、実際の児童生徒を目の前にしたつもりで行う。

時間に余裕があれば終末まで行う。

実践のポイント

○　模擬授業の最中「この発問は明らかに子どもにとって難しすぎる」と、課題が明らかになる場合があります。その時は、模擬授業を終えた後に、その課題について話し合うことも考えられますが、あまり時間をかけたくない場合は、ストップモーション方式で課題が明らかになったところで授業を止め、話し合いをもち、解決したら次へ進むというやり方も効果的です。

Plan16（計画）こんな方法で！

Ｑ　限られた時間の中で、より有効に機能する授業研究会にするにはどうすればよいでしょうか？

Ａ　研究主任を中心に、授業研究会をマネジメントしていくことが大切です。

１　意図的・計画的な授業研究会の設定

学校教育においては、限られた時間の中で児童生徒に学力を身に付けさせなければなりません。したがって、授業研究会については、事前研究会や事後研究会を意図的・計画的に進めていく必要があります。

２　事前研究会を行う時期・何回・ねらいなどの明確化

例えば、事前研究会を行う際も、ただ日時のみを決めるのではなく、本時を実施するまでに、いつ頃何回事前研究会を行うのか？また、この事前研究会では、どのような内容を話し合い、どのようなことを決めるのか？さらには、授業者や参加者は、何を準備して事前研究会に臨めばよいのかを明らかにします。

３　１回目の事前研究会は早めの実施

特に、１回目の事前研究会はできるだけ早い時期に実施することがポイントです。できれば、およそ４０日前には行いたいところです。理由は、事前研究会で様々なアイディアを授業者以外の参加者から出されますが、多くの場合は、それらのアイディアを吸収しきれず、指導案の中に生かし切れないまま終わってしまうことがあるからです。その原因は、参加者から出されたアイディアを理解して指導案に生かしていくまでの時間的な余裕がないということが考えられます。

このような理由から、早い時期に１回目の事前研究会を設定することが大切です。

４　年間スケジュールの活用

実際に授業研究会をマネジメントするのは、研究主任などの仕事になります。しかし、ただでさえ忙しいのにスケジュールの管理までも研究主任が行うのはとても無理という声が聞こえてきそうです。

そこで、次のページにあるような「校内研究充実のための年間スケジュール」を参考に、研究主任が教務主任などと調整を図りながら、授業研究会の計画を立ててみましょう。そして、授業者にも計画表を配り、早めに準備を進められるように声をかけていくことが必要です。

ハンドブックを活用した校内研究充実のための年間スケジュール例No.1（4月～夏休みまで）

《例》
・第1回授業研究会　6月中旬　それに向けた事前の準備はおよそ40日前とします。
・1回の事前研究会にかけられる時間は90分とします。
・単元計画を重視した事前研究会とします。

月	事前研究会1回	事前研究会2回	事前研究会3回
4	校内研究充実のための必須な実施事項 **校内研究の全体会**　※4月中に最低2回実施 ●1回目（4月上旬） ①研究テーマ　全体構想図等、基本方針を確定し提案する。 ※どんな内容をどんな方法で研究していくのかを明確にする。（内容論と方法論の明確化） ②授業者の決定 ※1回目の授業は、欲張らず研究主任や前年度からの持ち上がりの教師が行うようにする。（一人の提案授業をみんなでじっくり確認） ●2回目（4月中旬～下旬） ①提案を受けて不明な点（文言の定義や学習指導要領のポイントなど）を教職員間で共通に理解する。 **→ハンドブックPlan12参考例④**		
5	**5月上旬　単元名・教材名の決定** ※いわゆる授業のやりやすい単元や教材を選ばないこと。提案性のある授業にすること。 **→ハンドブックPlan14** **5月上旬（本時から約40日前）　1回目の事前研究会** ※授業で扱う教科等の学習指導要領のポイントを確認する。 **→ハンドブックPlan4** ※可能であれば指導主事やその教科に精通している方を積極的に活用する。 ※授業者は最低単元計画案を準備する。 **→ハンドブックPlan12** ※単元計画案を変更した場合は、事前に指導を受けた方に、最終の点検を得る。 **◆指導のポイント確認と単元計画の決定**	※可能であれば指導主事やその教科に精通している方を積極的に活用し、授業で扱う教科等の学習指導要領のポイントを確認する。 **→ハンドブックPlan4** ※授業者は最低単元計画案を準備する。 **→ハンドブックPlan12** **◆指導のポイント確認と単元計画の検討** **5月下旬（本時から約20日前）2回目の事前研究会** ※前回の事前研究会で検討された内容を受けて、授業者が変更した単元計画案を準備する。 **→ハンドブックPlan13** ※単元計画案を再度変更した場合は、事前に指導を受けた方に、最終の点検を得る。 **◆単元計画の決定**	※可能であれば指導主事やその教科に精通している方を積極的に活用し、授業で扱う教科等の学習指導要領のポイントをじっくり確認する。 **→ハンドブックPlan4** **◆指導のポイント確認** **5月中旬～下旬（本時から約30日前）2回目の事前研究会** ※前回の事前研究会を受けて、授業者は単元計画案を準備する。 **→ハンドブックPlan13** **◆単元計画の検討** **5月下旬～6月上旬（本時から約10～20日前）3回目の事前研究会** ※単元計画を確定する。 ※確定した単元計画を基に本時案を検討する。 **◆単元計画の決定と本時案の検討**
6	**6月上旬　1週間前指導案を関係者へ配付・模擬授業で最終確認** ※単元指導計画に沿って学習を進めながら、児童生徒の実態に応じて単元計画や本時案の変更は必要でないかを検討する。 ※本時案の最終確認のために模擬授業を行う。 **→ハンドブックPlan15** **6月中旬　第１回授業研究会（本時）** ※授業の参観の仕方を工夫する。 **→ハンドブックDo１～５** ※全員参加型の事後研究会の工夫をする。 **→ハンドブックCheck１～５** ※単元の指導後、授業研究を受けて授業者の指導改善につながる取組を工夫する。 **→ハンドブックAction１～５** ※研究主任の立場から授業研究会を総括し、成果と課題をまとめる。 ※総括した内容は校長・教頭・主幹教諭などに報告し、日々の教育活動に生かせるようにする。		
7			

ハンドブックを活用した校内研究充実のための年間スケジュール例No.2（8月～冬休みまで）

《例》
・第2回授業研究会　10月中旬とします。
・1回の事前研究会にかけられる時間は90分とします。
・単元計画を重視した事前研究会とします。

月	事前研究会1回	事前研究会2回	事前研究会3回
8	校内研究充実のための実施事項 **1　夏休み明けに実施される授業研究の1回目事前研究会** ※《必須》可能であれば指導主事やその教科に精通している方を積極的に活用し、授業で扱う教科等の学習指導要領のポイントを確認する。**→ハンドブックPlan4** ※授業者が扱う単元において、教科書や過去の授業者の単元計画を準備し検討する。 **→ハンドブックPlan12参考例①、③** **2　4月から実施された授業研究の振り返り** ※時間的な余裕があれば、実施する。 **8月中　単元名・教材名の決定**		
9	※いわゆる授業のやりやすい単元や教材を選ばないこと。提案性のある授業にすること。 **→ハンドブックPlan14** **9月　授業者自身での準備** ※授業者が扱う単元において、教科書や過去の授業者の単元計画を準備し検討する。 **→ハンドブックPlan12参考例①、③** ※参考文献や過去の指導案などを参考にし、自分の指導案と比較する。（比較→共通点・相違点の確認→指導案への反映の検討） ※単元計画案を変更した場合は、事前に指導を受けた方に、最終の点検を得る。 **◆単元計画の決定**	**9月上旬（本時から約40日前）　2回目の事前研究会** ※授業者は最低単元計画案を準備する。 **→ハンドブックPlan12参考例①、③** あるいは、 ※単元計画案を再度変更した場合は、事前に指導を受けた方に、最終の点検を得る。 **◆単元指導計画の検討** 必要に応じて、 ※前回の事前研究会で検討された内容を受けて、授業者が変更した単元計画案を準備する。 **→ハンドブックPlan13** **◆単元計画の決定**	※前回の事前研究会を受けて、授業者は単元計画案を準備する。 **→ハンドブックPlan13** **◆単元計画の検討** **9月下旬（本時から約20日前）3回目事前研究会** ※単元計画を確定する。 ※確定した単元計画を基に本時案を検討する。 **◆単元計画の決定と本時案の検討**
10	**10月上旬　　一週間前指導案を関係者へ配布・模擬授業で最終確認** ※単元計画に沿って学習を進めながら、児童生徒の実態に応じて単元計画や本時案の変更は必要でないかを検討する。 ※本時案の最終確認のために模擬授業を行う。 **→ハンドブックPlan15** **10月中旬　　第２回授業研究会（本時）**		
11	11月・12月の授業研究会についても、上記10月に行われた授業研の日程を参考にしながら行う。 ※夏休み中に余裕があれば、この時期の授業研究会についても準備を行う。		
12	校内研究充実のための実施事項 **1　研究紀要等へのまとめ** ※授業者の指導案を載せることはせず、指導の実際（指導案をもとに実際に行った学習）を研究紀要などへ入れる。あるいは、指導の実際を受けて改善が必要と思われる箇所を直した指導案を載せる。 **→Action6**		

ハンドブックを活用した校内研究充実のための年間スケジュール例No.3（1月～年度末まで）

《例》
・授業研究会の予定はない場合とします。
・今年度の総括と年度末作成の研究紀要の準備の時期とします。

月	事前研究会1回	事前研究会2回	事前研究会3回
1	**研究紀要などの作成**		
	研究紀要などの作成（総括） **今年度の振り返りと次年度へ向けた話し合い** ※早い時期に教務主任と相談しながら、校内研究にかかわる話し合いがもてる日時を確保する。		
2	例えば、 **1　研究主任もしくは研究主任に相当する教員による総括の授業研究** ①　各授業者より示された成果を取り入れて単元計画を作成する。 ②　課題を解決するための視点や手立てなどを指導案に盛り込み、来年度の研究の方向性を示す。 **2　指導案作成時の参考図書一覧作成・参考資料ファイリング化** **→Action４** ①　各授業者が指導案作成時に参考にした図書を集約し、一覧にまとめたり必要な場合は購入したりする。 ②　各授業者が指導案作成時に参考にした資料（指導案など）をファイリングする。 **3　年間指導計画の見直し** ①　授業者が行った授業の教科を中心に、年間指導計画の見直しを図る。（□重点指導事項の設定　□単元の配列　□他教科等の関連　□評価の規準・基準の設定など） **4　成果と課題の共有化** ①　各教員から出された成果と課題をまとめ、共有化を図る。特に、成果については次年度に取り入れられる内容をピックアップし、実施可能な場合はすぐに実行にうつす。 ②　課題については、リストアップしたものを整理し、分析を行う。（原因の究明と解決策の提示） **5　外部講師による総括講義などの研修会を実施** ①　年度中からお願いしている外部講師に総括の話をしてもらう。 ②　この研修会のために新たに外部講師を招いて、研究の成果と課題について話をしてもらい、適任であれば次年度初めから指導をしてもらう。		
3	**研究紀要などの完成**		
	関係機関への配付		

P16

Do1（実施）

Q　発問や指示など、どのようなことに気を付けて授業を進めればよいでしょうか？

A　発問や指示などのポイントを確認し、それぞれの場面において、ねらいに沿った手立てになるよう吟味しましょう。

1　発問について

思考をゆさぶる発問は授業を活性化していきます。できるだけ短い言葉で明確に問い、全員に自分の考えをもたせるように配慮しましょう。発問計画を立てる時は、児童生徒の豊かな発想や多様さを受容し、柔軟な対応を考えて授業に臨むことが大切です。指導者の意図する方向に強引に進めては、追究意欲も喚起されません。

2　説明について

明快な説明をすることによって、学習内容が整理されます。順序よく、論理的に、できるだけ短い言葉で述べます。「結論を最初に述べて、論拠を項目立てて話す」ことを基本としながら、十分に間を取るなど、場に応じた説明の仕方を工夫しましょう。

3　指示について

きびきびとした指示は授業にリズムを生み出します。一つの指示で一つの行動を取るように指示するのが原則です。活動に要する時間を予想し、活動時間を示します。作業などが早く終わった児童生徒に対しては、次の学習活動を明示し、見通しをもたせることも大切です。

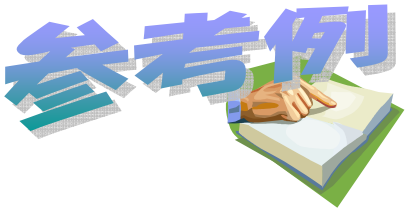
4　指導・支援について

個に応じた指導・支援は児童生徒一人一人の学習を確かなものにしていきます。つまずいている児童生徒と一緒に考え、助言によって方向付けたり、自信をもたせたりすることが重要です。励ましの言葉は学習を進めていく上での大きなエネルギーになります。

5　板書について

板書は、児童生徒の学びを助けるためにあります。板書を完成していくために授業が進行していくのではありません。指導者が予想もしなかった児童生徒の発言でも授業の流れに応じて、関係付けたり、精選したり、付け加えたりして板書していくことが大切です。

山形県教育センター「学び続ける教師」より



＜発問＞
○　できるだけ短い言葉で、すっきりと問う。
○　発問に対して全員に自分の考えをもたせる。
○　児童生徒の豊かな発想を受容する。

＜説明＞
○　重要なところをはっきと述べる。
○　児童生徒の知っていることと関係付ける。
○　ユーモアを忘れない。

D 1

＜指示＞
○　一指示一行動を原則とする。
○　活動の時間を明らかにする。
○　早く終わったら何をするかを示す。

＜指導・支援＞
○　机間指導によって一人一人の学習状況をよく見て、適切に指導・支援する。
○　機会を見つけて励ましの言葉を与える。
○　学習環境を整えて授業の雰囲気をつくる。

＜板書＞
○　必要な時に必要なことを書く。
○　構造的な板書を心がける。
○　色チョークなどを使い、児童生徒の思考が見えるようにする。

実践のポイント
○　短い言葉で、児童生徒が学習の見通しがもてるようにします。
○　児童生徒が予想しなかった反応をした場合については **Do 2** も参考にしてください。

Do2（実施）

Ｑ　児童生徒が予想外の反応をした場合、どうすればよいでしょうか？

Ａ　臨機応変な対応が必要になりますが、そのためにも単元計画が重要になります。

１　児童生徒が４０人いれば４０通りの考え方

発問や指示は、授業を進める上で重要であり、十分な吟味が必要です。その際に、次の段階に進むためにも児童生徒の反応を予想し、それに対応するよう授業を組み立てていきます。しかし、児童生徒が４０人いれば４０通りの考え方をするわけですので、必ずしも「予想される反応」どおりにはならないのは当然のことであり、そこでどう対応するかは教師の腕の見せどころです。

２　臨機応変な対応

予想していないことですから、対応の準備はしていないわけですので、その場で考えた臨機応変な対応が要求されます。そこで、具体的な対応は準備できていなくても、「予想していない反応」をした場合の心の準備が必要となります。

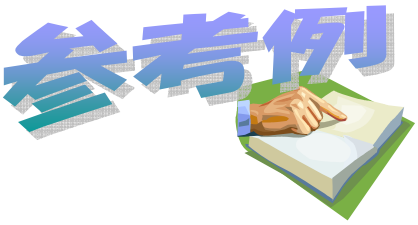
３　よりどころは単元計画

「予想していない反応」への対応は、大きく二つに分けられます。

一つは「児童生徒の反応に沿って授業の流れを変えていく」ことです。児童生徒の反応がよく、次の時間に予定していた内容まで進めることができそうな場合などは、この対応が効果的です。逆に児童生徒の定着が不十分で、次の段階に進む前に、もう一度前時の復習が必要な場合などもこのパターンになります。そうするためには、単元指導計画をしっかり組み立てておきましょう。

もう一つは「予定した流れのまま進める」ことです。児童生徒の反応に対応する内容が、その後の時間に実施する予定であり、その場で対応するよりは、計画どおりに進めた方がよい場合などはこの対応が効果的です。その場合「このことについては、次の時間に詳しく勉強します」などと見通しをもたせることも工夫の一つです。このような対応ができるようになるには、その後の単元計画がどうなっているか、しっかりと頭に入っていなければなりません。

（単元計画については Plan４～８を参考にしてください）



1　児童生徒の反応に沿って授業の流れを変えた例（中１音楽）

リコーダーの運指の理解が予想より不十分だな・・・。

これができないと、次の時間につなげられないので、もっと時間をかけて練習させよう・・・。

2　予定した流れのまま進めた例（小５算数）

Ａ君の考えは、次の時間の活動に広がりをもたせることができる。

Ａ君の考えはおもしろいね。
次の時間にみんなでじっくり考えましょう。

実践のポイント

○　臨機応変な対応のためには、しっかりした単元計画が必要です。
○　単元計画の作成についてはPlan４～８を参考にしてください。

D2

Do3（実施）

Q　児童生徒の記録を取る場合、どんなことに気を付ければよいでしょうか？

A　事後の話し合いで確実に活用できるように、記録する内容や記録の取り方を吟味しましょう。

1　抽出児童生徒の記録とその課題

授業の記録方法としては、抽出児童生徒を数名決め、一人の児童生徒の様子を一人の教師が記録を取るという手法があります。教師と抽出児童生徒の一問一答を正確に記録するので、とても有効なデータとなります。しかし、取りっぱなしになってしまい、事後研究会などであまり使われずに終わってしまうこともあるようです。

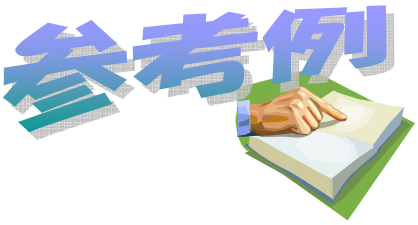
2　記載する内容の工夫

事後研究会で使われないことが多いということは、書かれている情報の必要性が低いということになります。記録方法を工夫し事後研究会や授業者にとってなくてはならない記録になるようにしたいものです。

3　記録者間の所感のずれ

次のような記録用紙を使用し、記録の取り方を工夫してみましょう。一人の児童生徒に対して複数の教師が記録を取ります。記録者が記載した所感やまとめなどを見比べて、記述の異なる箇所（A先生はこう観たのにB先生は違った）を取り上げます。このずれを取り上げることで事後研究会を深めることができます。

時間	教師の働きかけ 発問（○）・指示（●）	児童生徒の 反応（・）	記録者の所感
			※児童生徒の反応の原因などを記載する。
			※抽出児童生徒にとっての本時の山場はどこか記す。 ※校内研究のテーマとのかかわりで気になった点などをメモする。など
まとめ （　）さんにとって本時の授業は？ *※興味関心・理解度などについて率直に書く。*			理由 *※なぜ左記のように書いたかの理由を記す。*



小学校３年生国語での事例
（テーマ：児童の学び合い）

【抽出児童Ａ児】についての記録用紙（左：Ｓ先生　右：Ｇ先生）

時間	教師の働きかけ 発問(○)・指示(●)	児童生徒の 反応（・）	記録者の所感
	○昨日勉強したことは?	・自分が書く体験報告文の題材を決めた。	すぐ反応。
7分	○今日の課題は、自分が書こうと決めた題材を友だちに話してアドバイスをもらおう。	・A児：ぼくは、縄跳び大会のことを書きます。理由は、上手く跳べたので楽しかったからです。 ・C児：Aさんに質問や感想はありませんか? ・D児：どうして楽しかったのか詳しく教えてください。 ・A児：たくさん練習をしてたくさん跳べたので楽しいと感じました。	◎話し合いが山場

A児にとって学び合いという視点で今日の授業は価値があった。

話し合いで出された質問に何を書くかがより確かになった。（後述略）

時間	教師の働きかけ 発問(○)・指示(●)	児童生徒の 反応（・）	記録者の所感
	○昨日は何したの?	・体験報告文の題材を決めた。	
8分	○自分の決めた題材を友だちに話してアドバイスをもらう。	・縄跳び大会のことを書きます。理由は、上手く跳べたので楽しかったから。(A) ・質問や感想ある？(C) ・楽しかった理由 (D) ・いっぱい練習したから。(A)	課題の説明が長い！ ◎山場（必要?）

A児にとって今日の授業は必要性があまりない。書きたい気持ちが強かった。

この話し合いが今後の学習展開に生かされるのかが疑問。まずは、報告文を完成させて交流すべきでは？

Ｓ先生とＧ先生のずれに着目すると、校内研究のテーマになっている学び合い（かかわり合い）についての見方の違いが生じています。本時に題材についての話し合いが必要だったのかどうか？あるいは、話し合いを設定しない他の展開が考えられたのかなど、校内研究のテーマという視点はもちろん教科の特性などを十分に考慮に入れながら、事後研究会で話し合われました。

実践のポイント

○　記録用紙に記録者の所感と最後のまとめを設定し、抽出児童を通して教師が本時の評価を行います。
○　一人の児童生徒に対して複数の教師で記録を取ります。
○　教師間の記録のずれを取り上げ事後研究会の話し合いで分析します。

（参考）「授業分析の方法と課題」日比裕・的場正美編　黎明書房　2008

Do4（実施）

Q　より多くの人に授業を観ていただくには、どんな方法がありますか？

A　学校外の方にも案内を出して参観してもらい、意見をいただきましょう。

1　立場の異なる方の授業参観

授業研究会では、ややもすると同僚の評価だけにとどまり、外部の人の声を聞く機会は少ないものです。立場の異なる人から意見をもらえる場を設定し授業を改善していきましょう。

2　公開の対象者を工夫

例えば、次のような方に授業を公開することが考えられます。

【公開の仕方】

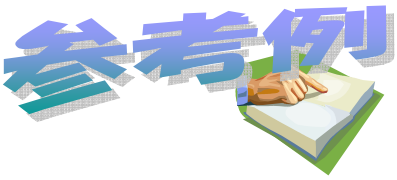
内容／対象者	授業前			授業	授業後	
	案内状	事前研究	指導案	参　観	討　議	アンケート
保護者	○	×	×	○	×	○
卒業（卒園）先の小学校・幼稚園	○	△	○	○	○	○
進学先の中学校・高等学校	○	△	○	○	○	○
近隣の学校の教職員	○	△	○	○	○	○
地域住民（学校後援会、子ども育成会などの関係者）	○	×	×	○	×	○

（参考）「校内研修サポートブック　これからの校内研修の在り方　－ＲＶとコーチングによる学校の活性化－」香川県教育センター p. 26

保護者への案内状には、授業のねらい・流れ・この授業で児童生徒に育てたい力などを、分かりやすい言葉で記載すると、アンケートにも答えやすくなります。

3　児童生徒の個人情報の保護

学校を積極的に公開することが求められています。また、幼・保・小連携、小・中連携、中・高連携の大切さも言われています。このような点からも、校外の方々にも授業を公開し情報を交換し合うことは、大変有効です。ただし、児童生徒の個人情報の漏洩やプライバシー侵害などが起こらないよう、資料などの作成や処理には十分気を付ける必要があります。



近隣の小・中学校への授業研究会の案内と保護者に記入してもらう授業後のアンケートについて紹介します。

【近隣小・中学校への案内状】

平成２１年１０月○日

○○中学区小・中学校長　様

○○市立○○小学校
校長　　○○　○○

授業研究会のご案内

秋麗の候、貴職におかれましてはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
日頃より本校の教育活動に深い御理解と御協力を賜り誠にありがとうございます。
さて、本校の授業研究会を下記のように行いますので、貴下職員の皆様にお知らせいただき、ご参観ならびにご指導を賜りますようご案内申し上げます。

記

１．日時　　平成２１年１０月○日（○）
　　①　授　業　　１３時５０分　～　１４時３５分
　　②　授業研究会　１５時１５分　～　１６時３０分

２．授業　　授業内容　　総合的な学習
　　「心はひとつ！　ファイナルステージ大作戦」
　　～○○子フェスティバルへの取組をとおして～
　　児　童　　６学年（男○○名、女○○名　計○○名）
　　授業者　　教諭　○○　○○、○○　○○　　講師　○○　○○

―（以下省略）―

【保護者用】

授　業　ア　ン　ケ　ー　ト

（　　）年（　　）組　　教科・科目（　　）　　授業担当者（　　）

この評価票は、先生方の授業をよくしていくためのものです。よく考えてＡ～Ｄのもっともあてはまるものに○を付けてください。
Ａ：よくあてはまる　Ｂ：ややあてはまる　Ｃ：あまりあてはまらない　Ｄ：まったくあてはまらない

	評価内容	A	B	C	D
1	話が聞き取りやすい				
2	説明がわかりやすい				
3	黒板が見やすい				
4	どの子にも活躍の場を与えている				
5	明るい雰囲気で授業が行われている				
6	学習内容が理解できるように工夫している				

授業の感想（自由に書いてください。）

「校内研修サポートブック　これからの校内研修の在り方　－RVとコーチングによる学校の活性化－」香川県教育センターp.27 より

実践のポイント

○　「学校を開く」という視点をもって教育課程を編成することが大切です。

D4

Do5（実施）

Q　他の教員の授業を参観する時、どんなことに気を付ければよいでしょうか？

A　その授業がどのような授業改善の視点から行うのかを明確にして参観するようにしましょう。そのためにも、事前研究で授業者と参加者の間で課題を共有することが大切です。

1　授業を観るポイントを明確にすること

授業研究は、全教職員が学習指導について学ぶことができる絶好の機会です。授業者の思いや願いはもちろんですが、授業を参観する際の視点をあらかじめ参観者は知っておく必要があります。そうすることで、参観者の授業を観るポイントや事後研究会の協議の視点が明確になります。

2　事前研究で課題を共有

授業を参観する際の視点を知るということは、事前に指導案を読むということだけでなく、事前研究を行い授業者と参観者の間で課題を共有することが重要になります。そうすることにより、参観者は単に授業者にアドバイスするということだけでなく、自分の課題として、その改善のためのポイントを探るべく視点がより明確になっていきます。事前研究のポイントについてはPlan１１～１５を参考にしてください。

3　事後研究会がより充実

課題を共有し、ポイントが明確になっていることで、事後研究会でも参加者が自分の感想を述べて終わりというような話し合いにはなりません。参観者も自分の考えをもちやすいので、より主体的に事後研究会に臨むことができます。授業者も、自分の今日の授業がどうであったかを的確に把握することができます。

4　授業を参観する際の注意点

授業を観察する際は、授業を妨げるような行為は避けなければなりません。例えば、児童生徒の様子を記録する際は、できるだけ本人に気付かれないようにすることが必要です。また、必要以上に児童生徒に声をかけたり、大きな声で参観者同士が話をしたりすることがないように注意したいものです。

☆　事前研究で視点を確認（課題を共有）

学年で事前研究を行い、授業者と参観者とで課題を共有します。

授業改善の視点の統一（例）

①　児童生徒の学び合いを成立させる。（ねらい）

②　ねらいに合った評価になっているか。

☆　視点に沿った授業観察

青色の付箋に成果、赤色の付箋に課題を書いています。書いた付箋は、事後研究会のワークショップで活用します。

実践のポイント

○ 授業者と参観者が一緒に事前研究会を行い、課題を共有することが重要です。
（事前研究会については**Plan１１～１５**を参考にしてください）

○ 視点が明確になると、事後研究会にも深まりが生まれます。

Check 1 （評価）

Ｑ　事後研究会を深めるには、どのような工夫をすればよいでしょうか？

Ａ　事後研究会に課題意識をもって参加できるような事前研究の工夫と、意見を出しやすくするような事後研究会の進め方の工夫をしましょう。

１　事後研究会の課題

授業実践に基づいた検討・分析である事後研究会は、校内研修を進める上で重要な位置を占めていますが、「一部教師の発言にとどまる」「若い教師が意見を述べにくい」「偏った視点からの協議に流れる」など様々な課題があるようです。

２　事前研究の工夫

例えば「自由に授業参観」「（事後研究会で）自由に発言」では、単なる感想の述べ合いになり、授業者の課題にも参観者の課題にも応えるものにはなりません。

どのような課題に向かった授業なのか（授業の視点）を明確にし、それを踏まえた授業参観と事後研究会にするためには、事前研究で授業者と参観者が課題を共有化しておくことが大切です。

（事前研究については Plan１１～１５を参考にしてください）

３　意見を出しやすい工夫

参加者が意見を出しやすくする工夫の一つにワークショップ型の事後研究会があります。

＜例＞・・・「ＫＪ法」

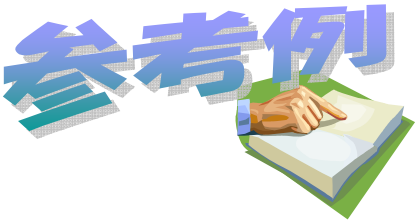
① 授業観察による気付き・発見・意見をできるかぎりカード（ラベルや付箋を含む）に書き出す。
- 一枚のカードには一つの事柄だけを書く。
- カードの使い方（色と記述内容の関連、縦置きか横置きかなど）の約束事を決めておく。

② カードが集まった段階で、グループ分けを行う。
- 同じような記述内容のカードを一まとめにして線で囲み小見出しを付ける。

③ グループ間の関係を分析し、その関係を矢印などで示す。

ＫＪ法は、ワークショップ型の授業分析においても最もよく使われる手法である。観察者の気付きなどを反映して自由な視点から授業を分析する際には有効である。

（ワークショップ型の手法については Plan１２を参考にしてください）



天童市立長岡小学校の実践

【事後研究会の進め方】

① 事前研究からの協議の柱を確認する。
② 各自付箋紙に気付いたことを書き出す。
③ グループごとに拡大した指導案に貼り出し、協議の柱にそって話し合う。
④ 全体で協議し、成果と課題を共有化し、整理する。
☆ コーディネーターは、ともに授業づくりを行った授業者と同学年の研究推進委員がつとめる。

各自参観授業を振り返りながら、見られた成果をピンク、課題を黄色の付箋紙に書き出し、拡大した指導案に貼り出しします。

グループごとに話し合いを進めます。
付箋紙を指導案上で移動しながら話し合い、グループ化してまとめていきます。

コーディネーター（事後研究会の責任者）が各グループを回り、全体協議の柱となりそうな情報を収集していきます。

各グループの成果物を掲示し発表し合い、コーディネーターが論点を整理し、成果と課題を明らかにしていきます。

参加者の声

- 事前に提示された協議の柱を中心に話し合うことで、論点が明確になりました。
- 少人数のグループ協議だったので、どんどん話し合うことができました。
- 付箋紙の記述を基に、ズバリ核心をついた話し合いをすることができました。
- グループ協議で成果と課題を明らかにすることで、全体協議で本質的な話し合いができました。

実践のポイント

○ 事前の工夫・・・・・事前研究会で課題を共有。授業の視点を明確化。
（事前研究会については Plan１１～１５を参考にしてください）

○ 会のもち方の工夫・・参加者全員が発言できる工夫。コーディネーターの配置。
（ワークショップ型の手法については Plan１２を参考にしてください）

Check2（評価）

Q　事後研究会の時間が短い場合、どんなことに配慮すればよいでしょうか？

A　「参加者全員が発言する」ことができるよう配慮し、事後研究会のもち方を工夫してみましょう。

1　「忙しくてなかなか時間が取れない」という悩み

「時数確保のためにも、授業は削れない」「放課後となるとせいぜい１時間ぐらいしか時間が取れない」など、どの学校も忙しく、何をするにも時間の確保が課題になっています。

授業研究を充実させるため回数を多くしようとすると、毎回十分な時間を確保することは難しくなります。会の回数や１回の会に費やす時間をあらかじめ設定することが必要です。

2　「参加者全員が発言する」よう配慮

事後研究会を深めるためには、「参加者全員が発言する」ことができるよう配慮する必要があります。しかも、一部の教員に偏ることなく、ベテラン教員も若手教員も同様に発言できるような工夫が大切です。短時間であっても、そのポイントをはずさないようにしましょう。

3　マン・ツー・マン方式

各学校の実態に合わせた工夫が必要ですが、例として、山形市立高楯中学校や天童市立第二中学校での実践「マン・ツー・マン方式」を紹介します。

> 「マン・ツー・マン方式」
>
> 話し合いの人数を２人組（１対１）にすることにより、必ず発言しなければならないという状況にし、積極的な意見交換を促す。

（１）ねらい

短い時間で全員が発言できるよう、２人組で意見交換することにより一部の教員の発言に偏らない協議にし、かつ学校全体での共通理解を図るようにする。

（２）進め方

①授業者の自評

②２人組グループ（マン・ツー・マン）で意見を交換

③２人組グループからの報告

④協議（全体での意見交換）

山形市立高楯中学校 天童市立第二中学校 の実践

【マン・ツー・マン方式】

① 全体で、授業者の自評を聞く。
② ２人組（マン・ツー・マン）で、授業についての意見交換を行う。
③ ２人組で話し合われたことを報告し合い、意見を共有化する。
④ それぞれの報告をもとに、全体で意見交換を行う。

授業者の自評を受けて、隣の席の先生と二人組で意見交換を行います。

２人組なので、設定された時間の中で常に意見交換がなされます。
積極的な話し合いになり、たくさんの意見が出されます。

それぞれのグループから報告し合って課題などを共有化し、全体での意見交換につなげます。

C２

参加者の声

- 時間が短い中だったが、考えていた意見を全部言うことができました。
- 事後研究会でペア（マン・ツー・マン）で話し合うことにより、必ず発言しなければならなく、発言することにより自分の考えを整理することができたと思います。

実践のポイント

○ 「全員」が「バランスよく」発言できること
○ 全体の共有化ができること
この２点に配慮すれば、短時間でも実りあるものになります。

Check3（評価）

Q　事後研究会で教科の壁を越えるにはどうすればよいでしょうか？

A　教科の専門性にかかわることについて深めることは難しいかもしれませんが、「授業づくり」を視点にすることで事後研究会を深めることができます。

1　「専門外なのでよく分かりませんが・・・」という前置き

「専門外なのでよく分かりませんが・・・」中学校の事後研究会でよく耳にする言葉です。確かに他教科については、学習指導要領を熟読する機会はまれで、これまで授業や指導案を見たという経験もあまりないという人がほとんどだと思います。「疑問に思った点もあるけれど、この教科ではそれでいいのかな・・・」などと思ってしまうことも多いのではないでしょうか。

2　「授業づくり」を視点

確かに、他教科の専門的なことは、よく分からないのが当然であり、意見も出しにくいものです。しかし、授業力を高めることを考えた場合、大切なことは教科の特性や教師の専門性だけではありません。「児童生徒が学ぶ必要感を持っているか」「活動がねらいに沿ったものになっているか」「つまずいている生徒はいないか。それに対する支援がなされているか」など、「授業づくり」を視点にすることで、異なる教科でも共通の課題が見え、話し合いも深まります。

3　他教科だからこそ気付くこと

それぞれの教科では、そうすることがあたりまえのことと思っていることでも、他教科から見ると疑問に感じることもあります。そこに焦点をあててみると、なぜそのやり方をするべきなのか、本当にそのやり方が最良なのかなど、改めて見直すことがあります。また「他教科の先生方が分からないことは、生徒にも分からない」という声もあります。専門外だからこそ気付くことがあり、そこに授業改善のポイントがあることも少なくありません。

4　ワークショップなど、意見を出しやすくする工夫

「専門外なのでよく分かりませんが・・・」は、まず禁句としましょう。そして、ワークショップなど意見を出しやすい場を工夫し、事後研究会を深めましょう。

「授業づくり」を視点にした、ワークショップ型の事後研究会

いくつかのグループに分かれ「授業づくり」の視点で、よかったことや改善案などを付箋に書き出していきます。

付箋を貼りながら、意見交換をしていきます。他教科だからこそ気付くこともあり、深まっていきます。

話し合われたことを発表し合い、全体で共有化します。

C３

実践のポイント

○　ワークショップなどで意見を出しやすくする場を工夫し「授業づくり」の視点で話し合いましょう。（ワークショップについてはPlan１２、Check１を参考にしてください）

○　「専門外なので・・・」は禁句。他教科だからこそ気付く大切なポイントもあります。

Check4（評価）

Q　日々の授業の振り返りは、何をすればよいのでしょうか？

A　その日の授業が終わったら、単元指導計画を見直すことが大切です。児童生徒の学習の定着を把握し、次時以降の授業計画を検討しましょう。

1　日々の授業の振り返り

授業研究会では、他の教員から授業参観をしてもらい、事後研究会で様々なアドバイスを受けながら自分の授業を振り返ることができます。しかし、日々の授業については、なかなかそうはいきません。自分自身で磨いていくことが大切です。

2　振り返り方

振り返りの方法・内容は、それぞれの教師のやりやすい方法でよいのですが、必ず「本時の目標の達成状況」つまり、児童生徒が、「ねらったところまで到達したか」「ねらった力を付けたか」を把握します。把握の仕方は、簡単なテストや観察の他、児童生徒の自己評価も活用できます。

3　単元（題材）計画を踏まえた振り返り

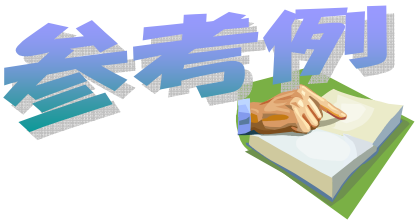
振り返りをしたら、それで終わることなく、次時につなぐことが大切です。振り返る際は、単元計画を基に、前時や次時との関連性を踏まえて本時の授業について考えていくことが大切です。

4　週案の活用

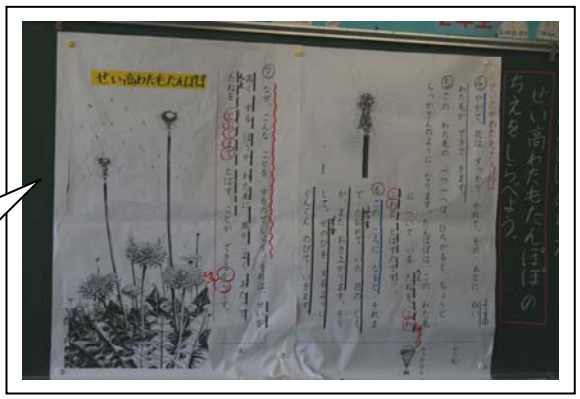
簡単でしかも確実な記録、計画の手法例としては、いわゆる「週案」の活用があります。振り返りをしたあと、次の授業の欄に指導内容を簡単にメモします。

必ずしも「週案」（「学習指導計画簿」など学校によって様々なやり方があります）を使ってやらなければならないということはありません。パソコンで表計算ソフトを使うなど、自分で使いやすい様式を工夫するのもよいでしょう。

ちょっとしたことですが、その積み重ねが、単元構成力を高めることにつながります。



振り返りの資料として、板書をデジタルカメラで撮影し記録します。



「私は、すべての教科について検討するのは難しいと思ったので、まず、国語からやってみようと思います」

「説明文の組み立て①」が終わった段階での見直しです。

「説明文の組み立て」は①～③の３時間を予定していましたが、２時間でできる見通しができたので、推敲①以降を１時間早めることにしました。

学校の指導計画簿よりも簡単な書式を自分でつくってパソコンで管理しています。

＜小学校の例＞

	月	火	水	木	金
1	（国） 説明文の 組み立て①	（算）	（国） ~~説明文の~~推敲① ~~組み立て~~③	（算）	（国） 推敲②~~ ③
2	（算）	（国） 説明文の 組み立て②	（算）	（国） 推敲①~~ ②	（算）
3	（理）	（社）	（音）	（図工）	（体）

C４

実践のポイント

○　授業のねらいと照らし合わせて、児童生徒の達成状況を把握しましょう。

○　次時以降の授業について、単元計画のままでよいのかなどの検討をしましょう。

Check5（評価）

Q　日々の授業の振り返りを深めるには、どうすればよいでしょうか？

A　次の授業にすぐ生かせることを考慮し、継続できるように短時間で書ける「授業記録シート」を活用しましょう。

1　形骸化した振り返り

授業研究会で学んだことを日々の授業に生かすためにも、毎日の振り返りは大切です。しかし、思い付くままに記録をとっていても、継続するうちにだんだんマンネリ化し「あまり意味がなくなってきたなあ・・・」と感じはじめる人もいることと思います。続けるうちに「振り返る」ことが目的になっているような形骸化に陥ってしまうことがあります。

2　客観性のある振り返り

思い付くままの記録は、手軽に書けるということでは取り組みやすいのですが、大切なポイントをはずした振り返りになってしまう危険性もあります。それを避けるためにも、自分自身による振り返りであっても客観性をもたせることが大切です。チェックするポイントをあらかじめ設定しておくとよいでしょう。

3　「授業記録シート」の活用

チェックするポイントを明確にするために、「授業記録シート」を作成し、活用してみましょう。継続するためにも、時間をかけずに短時間で取り組める内容を工夫します。また、次の授業にすぐ生かせるような工夫をしましょう。

4　共有化による深まり

一人一人の振り返りを個人だけのものにとどめず、学年や学校全体で共有することにより、さらに深まりをもたせることができます。学期末や年度末にレポートにまとめての発表会などは、授業力向上に大変有効です。

＜日々の授業記録シートの例（１）＞

授業日　６／４　（　１　）年（　３　）組　（　３　）校時		
授業の準備教材の工夫	◎	授業でよかった点
授業の充実	○	・教材の準備　→　生徒の反応がよい
授業の進め方	△	
生徒主体の授業の工夫	△	改善しなければならない点
説明の分かりやすさ	○	・もっと生徒の活動を多く
生徒への接し方	○	

＜日々の授業記録シートの例（２）＞

項目	No.	評価項目	評価
授業の準備、教材の工夫	1	生徒の理解度に応じた教材の工夫をした。	○
	2	予想される反応を考え、それに対応した手立てを準備した。	△
授業の充実	3	基礎的な知識・技能の確実な定着が図れる学習活動を展開した。	○
	4	生徒の学習意欲を喚起する学習活動を展開した。	○
授業の進め方	5	授業の最初にねらいを示し、授業の最後に内容を確認した。	△
	6	学習状況を把握し、理解度に応じた授業の進め方ができた。	△
	7	生徒の発言や発表など、生徒自らが考えた内容を取り上げた授業ができた。	○
生徒主体の授業の工夫	8	生徒一人一人が積極的に授業に参加できる場面を用意した。	○
	9	自ら考えたり、自ら取り組んだりする主体的な学習活動の場を設定した。	○

（以下略）

（参考）「授業改善のための授業分析ガイドブック」神奈川県立総合教育センター

実践のポイント

○　「授業記録シート」を活用し、ポイントを明確にした振り返りをしましょう。

○　振り返りを単元指導計画の見直しにつなげましょう。

（単元計画については **Plan４～８** を参考にしてください）

Action 1（改善）

Q　単発になりがちな授業研究会を改善するにはどうすればよいでしょうか？

A　授業研究会を目的とせず、次の実践につなぐ工夫や体制づくりをしましょう。

1　事後研究会がゴール？

「授業研究会が、なかなか日々の授業に生かされない」そんな悩みが、聞こえてくることがあります。

原因の一つとして考えられることは、授業研究会を目的（ゴール）にしてしまっていることです。こうなると、いくら「P（計画）」「D（実施）」「C（評価）」を充実させても、「A（改善）」が具体化されず、結果的に事後研究会で終わってしまい、次の実践につながっていきません。

2　次につながる授業研究

村川雅弘教授（鳴門教育大学）は、「事後研究を充実させることは、そこに参加したすべての先生方にとって、自分の次の実践のための事前研究になる」と述べています。授業研究は次の授業改善に結び付けてこそ意味があるのです。

3　新たな課題が見つかる授業研究

授業研究において、課題解決の糸口が見付かったり、新たな課題が見付かったりすることにより、「今度はこうしてみよう」と次の単元につながっていきます。そのためにも、提供された授業が「参観者にみせる」ためのものではなく、「授業者と参観者で共有した課題」に基づいたものであることが前提となります。（課題の共有については、Plan１１～１５を参考にしてください）

4　体制づくり

次の単元につながる体制づくりのポイントとしては、①授業研究会で話し合われたことを共有化すること、②課題を出すだけでなく、改善点まで話し合うこと、③出された改善案を記録として残すだけでなく、活用できる工夫をすること、などがあります。（体制づくりのポイントについてはAction２～４を参考にしてください）

☆　事前研究で課題の共有

共有した課題が授業参観の視点に！

☆　授業の提供・参観

共有した課題が事後研究会の協議の柱に！

☆　事後研究会

課題解決のヒントがつかめたぞ！次の単元に生かそう！

新たな課題が出てきたな。次の単元でやってみよう！

次の単元につながる授業研究マネジメントサイクル

授業改善

実践のポイント

○　事前研究で課題を共有することで、事後研究会で話し合われたことが次の単元につながっていきます。

○　体制づくりのポイントについては Action２～４を参考にしてください。

A１

Action2（改善）

Q　事後研究会の内容を、共通理解するにはどうすればよいでしょうか？

A　話し合いの内容を分析し、デジタル化したシートや研究通信、レポートなどの形にして共通理解が図れるよう工夫をしましょう。

1　分科会の報告だけでは不十分

より活発な意見交換をし、深まった話し合いにするため、参加者の人数をしぼり、分科会で事後研究会を行う場合が多いと思います。その後、全体で成果や課題を共有することは大切であり、全体会での報告という形をとる場合がありますが、口頭での報告のみでは実際の話し合いの様子も分からず、理解をするには不十分です。

2　記録の工夫

深まった話し合いがなされたとしても、その事実を分析し、価値付けをして記録を残さなければ、次の実践の改善には結び付いていきません。

ワークショップの成果物（付箋を貼った大判用紙など）をまとめて記録したり、研究通信として発行したりして、全職員で共有化するという工夫があります。

3　日々の実践の改善

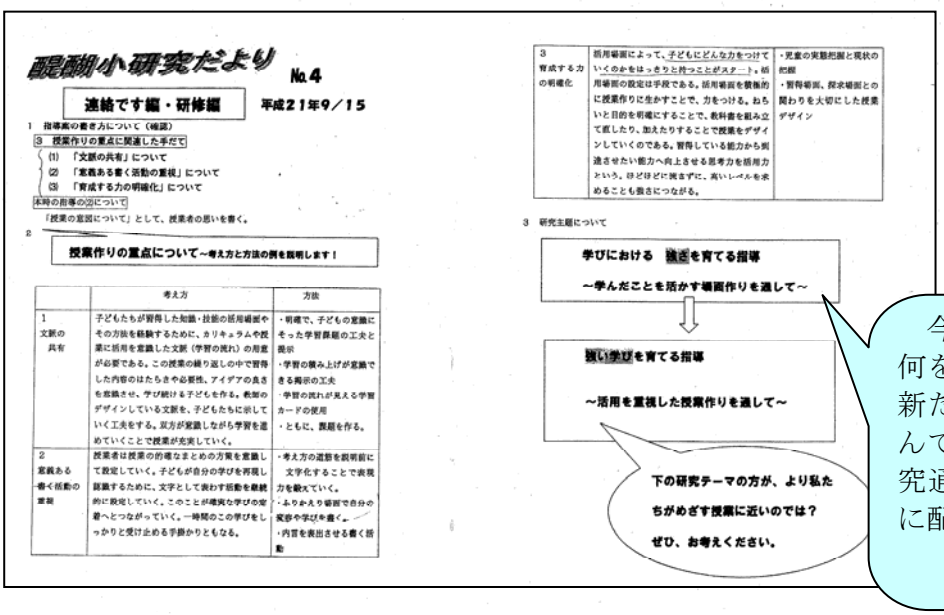
しかし、「記録にまとめる」ことが目的のようになり、各人の日々の実践の改善に結び付かなければ意味がありません。記録をもとに、どのように実践化していったか振り返る研修会などの企画が有効です。授業者と参観者がそれぞれレポートなどを作成しているという実践もあります。

学期や年度などの大きなサイクルで、まとめや振り返り、次のサイクルに向かう計画づくりなど、学校全体での研修体制を工夫してみましょう。

①事後研究会で出された意見などをシートにまとめ、価値付けて配付

ワークショップ型の事後研究で作ったシートをまとめ、そこに研究主任が価値付けのコメントを加えて全職員に配付します。

②授業研究会から学んだことを、研究通信にして配付



醍醐小研究だより No.4

連結です編・研修編　平成21年9／15

1　指導案の書き方について（確認）

3　授業作りの重点に関連した手だて

(1)　「文脈の共有」について

(2)　「意義ある書く活動の重視」について

(3)　「育成する力の明確化」について

本時の指導の2について

「授業の意図について」として、授業者の思いを書く。

2

授業作りの重点について～考え方と方法の例を説明します！

	考え方	方法
1 文脈の共有	子どもたちが習得した知識・技能の活用場面やその方法を経験するために、カリキュラムや授業に活用を意識した文脈（学習の流れ）の用意が必要である。この授業の繰り返しの中で習得した内容のはたらきや必要性、アイデアの良さを意識させ、学び続ける子どもを作る。教師のデザインしている文脈を、子どもたちに示していく工夫をする。双方が意識しながら学習を進めていくことで授業が充実していく。	・明確で、子どもの意識にそった学習課題の工夫と提示 ・学習の積み上げが意識できる掲示の工夫 ・学習の流れが見える学習カードの使用 ・ともに、課題を作る。
2 意義ある書く活動の重視	授業者は授業の的確なまとめの方策を意識して設定していく。子どもが自分の学びを再現し認識するために、文字として表わす活動を継続的に設定していく。このことが確実な学びの定着へとつながっていく。一時間のこの学びをしっかりと受け止める手掛かりともなる。	・考え方の道筋を説明前に文字化することで表現力を鍛えていく。 ・ふりかえり場面で自分の変容や学びを書く。 ・内言を表出させる書く活動
3 育成する力の明確化	活用場面によって、子どもにどんな力をつけていくのかをはっきりと持つことがスタート。活用場面の設定は手段である。活用場面を積極的に授業作りに生かすことで、力をつける。おもいと目的を明確にすることで、教科書を組み立て直したり、加えたりすることで授業をデザインしていくのである。習得している能力から興味させたい能力へ向上させる思考力を活用力という。ほどほどに流さずに、高いレベルを求めることも強さにつながる。	・児童の実態把握と現状の把握 ・習得場面、探求場面との関わりを大切にした授業デザイン

3　研究主題について

学びにおける　検証を育てる指導

～学んだことを活かす場面作りを通して～

⇩

残い学びを育てる指導

～活用を重視した授業作りを通して～

下の研究テーマの方が、より私たちがめざす授業に近いのでは？

ぜひ、お考えください。

今回の授業研究会で何を学んだのか、何が新たな課題として浮かんできたのか…を、『研究通信』として全職員に配付します。

A 2

実践のポイント

○　「まとめることが目的」ではありません。分析して価値付けた上で、単元構成のさらなる工夫など、具体的な授業改善に結び付けていくことが大切です。

Action3（改善）

Ｑ　事後研究会の話し合いを、実践につなげるにはどうすればよいでしょうか？

Ａ　意見交換で終わらず、具体的な改善案まで検討し、模擬授業をやってみましょう。

１　見えない結論

事後研究会においては、ワークショップなどを取り入れながら、学年や教科の壁を越え、活発な意見交換ができるよう、様々な工夫がなされています。しかし、そこでの課題として「お互い意見を出し合うことはできたが、終わった後、何をどうすればよいのかよく分からいなあ・・・」という声が聞かれます。また、授業研究会活性化のため、ワークショップを取り入れ、今まで以上に意見が出るようになったものの、次のステップとしての深まりがほしい・・・。そんな積極的な課題意識をもった学校もあります。

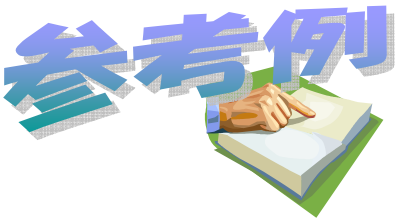
２「指摘」から「提案」

活発な意見交換がなされていても、感想や課題の指摘だけでは、授業者はどう改善していけばよいか分かりません。ワークショップ型事後研究会においても、課題に対する改善策を出し合うことが大切です。参観者の側においても、その提案をすることが、今後、自分の実践にどう生かしていけばよいかが見えてくるカギとなります。なぜならば「自分だったらこうする」という観点で考えるからです。

３　すぐ、その場で模擬授業

「こうすればいいんじゃないかな・・・」というアドバイスがいかにすばらしいものに感じられても、それはあくまでも机上の考えであり、実際にやってみないことには分からない部分もあります。そのため、すぐに実践に結び付ける手法として、その場で模擬授業をやってみるという実践をしている学校があります。改善策を提案し、あとは授業者任せというのではなく、模擬授業を通して改善案をみんなで検討することで、より実践的な話し合いがなされます。

（模擬授業についてはPlan１５を参考にしてください。）



☆　出された課題に対し、改善案を出し合います。

　では次に、課題として出されたことに対し、どう改善したらよいか、アイディアを付箋に書いてください。

☆　改善案について、模擬授業をやりながら有効性を確認します。

　では、実際どうなるか、模擬授業をやってみましょう。

A 3

実践のポイント

○　「課題に対する改善案」を必ず出し合いましょう。

○　改善案については言葉のやりとりだけでなく、模擬授業など、より実践的な検証の工夫をしましょう。

（模擬授業についてはPlan１５を参考にしてください）

Action4（改善）

Ｑ　次の単元計画を考える際は、どのようなところに気を付ければよいでしょうか？

Ａ　Ｄｏ（実施）とＣｈｅｃｋ（評価）で把握した課題を、単元構成のポイントと照らし合わせて整理し、改善に努めましょう。

１　成果と課題を生かした単元づくり、授業づくり

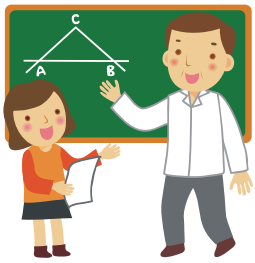
授業研究会や、日々の授業の実践・振り返りを通して、様々な成果と課題が見えてきます。
「児童生徒の実態把握が十分ではなかった」、「目標の設定が適切ではなかった」、「授業研究会における、本時の選び方が適切ではなかった」など、次の単元づくりや授業づくりにおいては、それらの課題を改善し、よりよいものにしていきたいものです。
（授業の振り返りについては、Check４～５を参考にしてください）

２　単元構成と課題

課題の改善にあたっては、課題となる部分にのみ視点がいきがちですが、それだけでは不十分です。単元計画の中で、前時や次時のつながりなどを踏まえて課題を確認することが大切です。
例えば、「目標の設定」が課題であれば、目標を設定する前にどんなことをするべきかを確認する必要があります。そうすることにより、課題である「目標の設定」を通して、単元全体をよりよいものにしていくことができます。

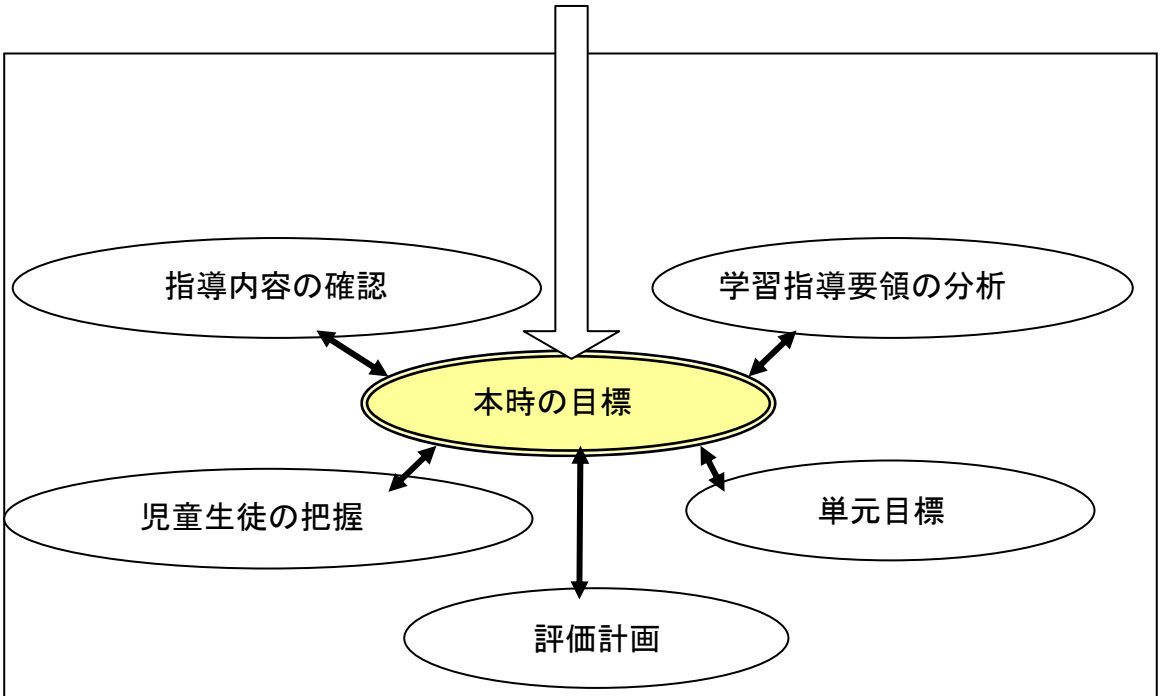
３　単元構成のポイント

再度、単元構成のポイントを確認し、それに課題を照らし合わせて単元計画を作成していきましょう。
（単元構成のポイントは、Plan１を参考にしてください。課題にかかわる具体的な手立ては、Plan２～１０を参考にしてください）



☆　Do（実施）における振り返り

☆　Check（評価）における成果と課題の把握



◎　課題だけを見るのではなく、単元構成全体を視野に入れて改善に努めましょう。

実践のポイント

○　Do（実施）、Check（評価）で成果と課題を把握しましょう。

○　課題となる部分だけを考えるのではなく、単元構成全体を視野に入れましょう。

（単元構成全体については Plan１を、課題改善の具体的な手立てについては Plan２～１０を参考にしてください）

A 4

Action5（改善）

Q　次年度に活用できる「研究のまとめ」（研究紀要）にするためのポイントはあるでしょうか？

A　指導案だけではなく「指導の実際」を残すことが必要です。

1　「研究のまとめ」（以下「研究紀要」という。）の有効活用

ほんとんどの学校では、年度末に研究紀要を作成し、研究の足跡を残すようにしています。研究紀要には、１年間行ってきた研究の財産がつまっているといっても過言ではありません。しかし、現状は、作成だけしてその後なかなか活用されないでいることが多いようです。その原因の一つとして考えられることに、「研究紀要に指導案だけが載っており、実際にどのような指導過程を経たのかが明らかにされていない」ことがあげられます。

例えば、次のような経験をされたことはないでしょうか。研究紀要に載っている単元計画のとおり学習を進めてきたのに、記載されていた総時数よりも大幅にオーバーしてしまったり、１時間１時間が上手くつながらなかったり…。

2　指導の実際＝次年度の単元計画

指導案の単元計画は、あくまでも予定であり、上記したようなことが起こるのも当然です。そこで、研究紀要には、指導案だけではなく、「指導の実際」も一緒に載せてみましょう。

そうすることで、次年度の授業者は、指導案の単元計画と指導の実際を比較しながら、計画どおりに進まなかった箇所を重点的に工夫を加えながら学習を展開していくことができます。

3　朱入りの指導案（単元計画）

そこで、授業者は、実際に学習を進めながら指導案（単元計画）に記録を残していくようにします。授業後、単元計画どおりに進まなかった点を朱書きで指導案に記録していきます。そして、単元終了後、単元計画に朱書きした点を加除訂正し「指導の実際」を完成させます。

指導案に、実際指導をして気付いたこと・考えたことなどを朱書きでメモしていく。

6　単元構成と指導・評価の計画　　【　　】…具体的な評価規準　　（　　）…評価方法

単元名　まとまりに分けて書こう「レベルアップせつめい書を作ろう」
１３時間扱い　　本時　５時間目

Ⅰ　自分が得意な事や自慢できる事を発表し合い，説明書を書く見通しを持つ。
・　自分の得意な事を発表し合い，学習の計画を立てる。
・　説明書にする意味を理解し，自分の題材を決める。→題材を決めるのに時間がかかった
（~~2~~時間）
1.5時間

・わたしは，～が得意なので，そのことをみんなに教えたいな。
・説明書にすると，いつでもできるよね。
関【話し合いを通して学習内容に関心を持ち，意欲的に学習計画を立てている。】（様子・ワークシート）
書【自分の伝えたい事を題材として選んでいる。】（ワークシート）
発言

Ⅱ　教材文の説明書を読み，説明書の特徴や工夫を見つけ，書き方を理解する。
・　教材文を音読し，説明書の表現上の特徴や工夫について話し合う。
・　説明書の特徴や工夫を「よく分かる書き方のくふう」としてまとめる。
（２～~~４~~時間目）
3

・馬場さんの説明書の工夫を見つけよう。
・やってみたくなるような書き方だね。
・自分の説明書でもこんな工夫で書いてみよう。
書【教材文から説明書の書き方の工夫点を見つけている。】（発言・ワークシート）
言【目次の項目や段落，横書きのきまりなどを理解している。】（発言・ワークシート）
難しい（見通しをもたせる視点が必要）

Ⅲ　教材文から読み取った説明書の書き方を生かして，自分が伝えたい事の説明書を作る。
・　自分の題材に合わせて標題を決める。
・　まとまりを考えながら書く目次を立てる。
・　自分の経験や取材活動で集めた情報を簡単にメモし，組み立て表を作る。
・　**目次に沿って説明文を書く。（本時）**
・　読んで分かる説明書になっているか，内容や書き方のいいところと改善点を見つける。
・　改善点を清書し直し，説明書を完成させる。
（５～１２時間目）
＋1時間
時間がかかった 組み立て表をもっとわかりやすくする 必要あり！

・どんな題名と目次にしようかな。
・どんな順番で書こうかな。
・何を説明しようかな。
・一文を短く書くと分かりやすかったね。
・どこを直すともっと分かりやすいかな。
書【書く必要のある事柄を選んで，いくつかのまとまりにして目次を立てている。】（ワークシート）
書【経験や取材をして書く材料を集めている。】（組み立て表）
書【目次に沿って，内容ごとのまとまりとその順序を考えながら書いている。】（下書き，作品）
書【下書きを見直し，読み手の立場に立って改善点を直している。】（作品）
言【接続語や指示語を適切に使い，誤字脱字に注意して丁寧に清書している。】（作品）

Ⅳ　説明書を読み合い，表現の工夫やよさを認めて感想を伝え合う。
（１３時間目）
できれば2～3時間ほしい！

・分かりやすい書き方だね。
関【友達の説明書を読み，内容や書き方について，感想を書いている。】（感想カード）

指導時数についての変更点を記録

評価の仕方について気付いたことを記録

実際に指導をしてもう少し工夫が必要な点を記録

A５

実践のポイント

○　朱入りの指導案（単元計画）を、「指導の実際」として加除訂正し、研究紀要に載せることで、次年度の授業者への参考となるようにしましょう。

○　次年度の事前研究会では、研究紀要にある「指導案」と「指導の実際」の２つを比べながら単元計画の作成を行えるようにしましょう。

引用・参考文献一覧

【引用文献】　※図表などの援用については本文中に記載

1　岩手県立総合教育センター　「校内授業研究の進め方ガイドブック」p.21　2007
2　香川県教育センター　「校内研修サポートブック　これからの校内研修の在り方　－ＲＶとコーチングによる学校の活性化－」p.26-27　2007
3　加藤明「プロ教師のコンピテンシー 次世代型評価と活用」p.85-86 明治図書 2008
4　田中耕治編　「よくわかる授業論」p.54-57（鋒山泰弘）ミネルヴァ書房　2008

【参考文献】

1　羽豆成二編著「小学校校内研究・研修の進め方」文教書院　2003
2　村川雅弘編著「「確かな学力」としての学びのスキル」日本文教出版　2004
3　木原俊行編集「〔学習指導・評価〕実践チェックリスト」教育開発研究所　2004
4　木原俊行「授業研究と教師の成長」日本文教出版　2004
5　木原俊行「教師が磨き合う「学校研究」」ぎょうせい　2006
6　村川雅弘・酒井達哉編著「総合的な学習充実化戦略のすべて」日本文教出版　2006
7　村川雅弘編著「授業にいかす　教師がいきる　ワークショップ型研修のすすめ」ぎょうせい　2007
8　岩手県立総合教育センター「校内授業研究の進め方ガイドブック」　2007
9　京都府総合教育センター「校内研修ハンドブック」　2007
10　水戸部修治「学習指導案作成のポイント」『国語科授業改善講演資料』　2007
11　吉崎静夫「事例から学ぶ活用型学力が育つ授業デザイン」ぎょうせい　2008
12　村川雅弘・野口徹編著「教科と総合の関連で真の学力を育む」ぎょうせい　2008
13　文部科学省　小学校・中学校学習指導要領各教科等の解説　2008
14　神奈川県立総合教育センター「高等学校版授業改善のための授業分析ガイドブック」 2008
15　加藤明「プロ教師のコンピテンシー　次世代型評価と活用」　明治図書　2008
16　横浜市教育センター編著「授業力向上の鍵」時事通信社　2009
17　水戸部修治「『書くこと』の系統的指導のための留意点」『実践国語研究』№293 明治図書 2009 年 2 月

平成２１年度　研究協力校

《小学校３校》

天童市立長岡小学校

寒河江市立醍醐小学校

東根市立小田島小学校

《中学校２校》

山形市立高楯中学校

天童市立第二中学校

単元を構成する力を付け、授業力を高める

授業研究ハンドブック

発行日：平成２２年３月３１日
発行者：山形県教育センター
住　所　山形県天童市大字山元字犬倉津２５１５
ＴＥＬ　０２３－６５４－２１５５
ＦＡＸ　０２３－６５４－２１５９